

2018 年度 法政大学ボランティアセンター活動報告・巻頭言

法政大学ボランティアセンター長 伊藤マモル

実践知を育むボランティア

はじめに

法政大学ボランティアセンターの 2018 年度報告書をお届けします。この報告書から表題の含意をお汲み取りいただき、教育や研究に通ずる多くのヒントや新たなボランティア活動のアイデアが得られれば幸いです。

2018 年度は東京オリンピック開催が迫る中でボランティアに対する注目度がアップしました。法政大学では、2009 年に 3 キャンパス（市ヶ谷・多摩・小金井）同時にボランティアセンターが設立され、熱い志をもった学生の様々な活動の積み重ねによってボランティアセンターは大きく成長してきたと思います。その活発な活動の様子は TV や新聞などのマスコミにも注目されるようになりました。まさにボランティアセンターは法政大学を代表する顔の一つになったと言えるのかもしれません。

この 10 年の道のりを学生たちとともに歩み、活動の種を蒔き花を咲かせてこられたのは、学生たちの活動を理解し受け入れて下さった地域・NPO・企業・行政に関わる多くの皆様からの多大なご支援ご指導があったからこそです。まずは心より感謝を申し上げます。また、学生たちがボランティア活動を成功させるために思い迷いながら実行に移すまでの過程で、自らの限界を知り、そしてそれを乗り越えていく姿を近くで見守り、時にはその背中を押して下さった歴代の職員や教員の皆様のご尽力にも改めて御礼申し上げます。

活動の概要

2018 年度の活動は各キャンパスの地域性に合わせて行なわれました。学生たちの活動は例年にも増して多岐にわたり、キャンセル待ちが出るほどの人気企画もありました。活動の主たるものとして、「地域」、「児童福祉」、「震災復興」、「環境保護」が挙げられます。これらの中には 3 キャンパスに跨る活動もあれば、各キャンパス独自の活動もあり、地域に密着し定着した活動は、地元の当たり前の風景になっており、法政大学の存在感を高めている感があります。

例えば、被災した地域の支援においては、市ヶ谷キャンパスのボランティア団体が岩手県の海岸線の南北に点在する釜石市、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市から内陸にちょうど扇子のように位置する遠野市をベースに活動を行っています。東日本大震災から 8 年が経ち、この地域を訪れるボランティア団体の数が大幅に減少した中で、「今年もオレンジ色のビブスを着た学生が来ている」「法政大学さんが来るのが楽しみだ」と言われるまでになっています。多摩キャンパスのボランティア団体も昨年を上回る活動を行いました。特筆すべきは、熊本地震（平成 28 年）によって被災した地域の避難所や仮設住宅での活動が挙げられます。また、東北の気仙沼市では市民の皆様から熱望され、学生たちが自己資金で足を運び熱心な活動を継続しています。こうした彼らの姿はある時期の風物詩のように地域に溶け込んでいるのです。

学びの場：教学との連携

ボランティアセンターに携わる以前の私はボランティアにはまったくの門外漢で、ボランティア活動は知識・経験・労力を提供するものだという認識を持っていました。しかしながら、学生たちの活動を見守る中で、実は学生たちが活動から受ける恩恵の方が圧倒的に大きく、ボランティア活動は多種多様な問題を解決するためのアクティブ・ラーニングに他ならないことに気づかされました。

近年、ボランティア活動の支援や「サービス・ラーニング」と呼ばれるボランティア教育に力を入れる高等教育機関が増加している背景には、地域貢献の活動へ参加することが学生にとって大学での学びへの関心と理解を高めるとともに人間的・社会的な成長に寄与するという期待があります（桜井政成：2007 年，立命館高等教育研究，No. 7，21-40）。

ボランティアの現場では多種多様な人々との出会いがあり、他人と接し理解する過程は自分を問い直すことにもつながります。また、日常とは異なる環境に踏み込めば、そこに適応して活動することが必然であることを受け止めなければなりません。多様性であるがゆえに非効率な多くの問題が次々に見つかり、それを共有し発信する過程で適切なコミュニケーション能力が醸成されます。ここに Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を通じた活動経験が育まれていきます。

このような学びを教室で具現化する是非はともかく、教学の立場からボランティアを良い意味で利用する価値は高いと考えています。一見、教学とは無関係に思われますが、専門的・科学的な知見をフィールドワークとして落とし込むことは有益な教育手段でもあります。ボランティアセンターの展望を開くためにも教育とボランティア活動の融合は将来的には不可欠であると思われ、このことにご賛同ご協力いただける教員との連携を前向きに進めることもボランティアセンターの使命だと思います。

大学と共有すべき課題

ボランティアを通じて知り合った多くの学生たちの成長を目のあたりにして、卒業後のキャリア形成にボランティアがどのような影響を及ぼしたのかを検証したいという衝動に駆られます。そう思わせる変容がほとんどの学生に見られることを実感しているわけですが、そのようなボランティア活動の効果を知らない学生が大勢を占めているのも事実です。また、直接現地を訪れなくても参加できる活動（ボランティア対象に関する知識を深める、情報の共有や発信、物産展に携わる、観光で訪れるなど）が無限にあることを発信していくこともボランティアセンターが取り組むべき今後の課題です。

活動の概要の例示からも明らかなように、学外から高い評価を得ているボランティア活動は体育会やサークルなどの課外活動とは一線を引くものと言え、大学のブランディングに直結しているとの見方もできます。このことが間接的に将来的な大学価値をいかに高めるかは図り知れません。

しかし、この活動を支えているのは学生の自発的な自己資金による参加に頼っているのが実情です。ボランティアセンター公認団体の学生たちが奮闘し、様々な協力者を求め、民間団体からの助成金や公的機関からの補助金などに果敢に挑戦して実績を積んできていますがそこには限界があります。大学における財政的な状況が厳しい中、今後の活動の大きな障壁となる学内予算の獲得はボランティアセンターにとって近々の大きな課題であることをより多くの教職員の皆様にご理解いただき、何らかの形でご協力を賜りたいと願う次第です。

今後の展望

今回の報告書は学生への支援効果や学生が赴いた活動の現場への影響を検証するまでには踏み込んでいませんが、今後の支援の在り方を検討するための基礎的資料となり、学生とともにボランティアセンターが存在する意義や次の 10 年で目指す姿をどう描くのか、そのための適切な学生との関係性を構築する上ではたいへん重要な資料になると思います。

グローバル化が叫ばれ外向き志向に走る我が国ですが、日本の基盤が揺らげば外向きのエネルギーを持続的に発揮することはできなくなります。法政大学として重要なことは、未来の日本を支えるために身近な地域との連携を深めるだけでなく、少子高齢化で衰退する可能性が高い地方を支えるためにボランティア活動の軸足を置くことではないでしょうか。すなわち、法政大学が掲げる「自由と実践知」を具現化する一つの場を学生や教職員に提供することがボランティアセンターに求められる使命であり、ボランティアセンターが法政大学の基軸組織として見直されることになろうと思います。

2018 年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他(人)	相談数(件) ※	開室日数(日)
4月	546	525	21	147	20
5月	415	397	19	84	21
6月	345	316	21	79	21
7月	310	294	7	47	21
8月	185	168	16	19	18
9月	172	161	12	25	19
10月	432	405	46	68	23
11月	312	295	18	46	22
12月	180	164	15	39	17
1月	201	188	13	70	18
2月	80	75	5	28	19
3月	144	124	20	22	20
合計	3,322	3,112	213	674	239

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

2018 年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他(人)	相談数(件) ※	開室日数(日)
4月	105	95	10	88	20
5月	51	47	4	47	18
6月	60	42	18	37	21
7月	39	22	17	19	22
8月	10	4	6	2	18
9月	26	22	4	19	19
10月	54	41	13	39	23
11月	50	24	8	35	21
12月	30	26	4	24	17
1月	18	15	3	15	17
2月	7	2	5	2	19
3月	11	8	3	1	20
合計	461	348	95	328	235

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

2018 年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議 題
第1回	4月26日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（春のボランティアウィーク・エコキャップDEキャンパスツアー、フードドライブ、料理de難民を知る、富士山外来種駆除ボランティア、SMBC日興証券コラボ企画、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（防災カルタプロジェクト、防災ゲームDAYへの出店、物産展、検討中の企画）、今後のスケジュール
第2回	5月24日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（富士山外来種駆除ボランティアの実施報告、SMBC日興証券コラボ企画、高円寺こども食堂ボランティア、料理de難民を知る、ポッチャ体験教室@すずらん祭り、謎解き×疑似体験から知る発達障害、会話の見える化アプリ体験、銀座ミツバチボランティア、正面ポッチャ体験教室、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（日本郷土カルタ協会主催「震災・防災と郷土カルタ」点@奥野カルタ展、防災ゲームDAYへの出店、物産展、環境省・檜葉町連携事業〜ワカモノと進めるボランティア〜実施報告、その他）、ボランティアセンター関連（東北被災地ボランティアツアー日程案、富士見坂庭園に救助犬がやってくる、インクルーシブデザインワークショップ体験会、東京メトロ飯田橋駅ボランティア）、今後のスケジュール
第3回	6月21日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（実施報告 すずらん祭り、料理de難民を知る、SMBC日興証券コラボ企画、高円寺こども食堂、企画中のボランティア進捗状況 会話の見える化アプリ体験、銀座ミツバチボランティア、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（日本郷土カルタ協会主催「震災・防災と郷土カルタ」点@奥野カルタ展物産展について、防災ゲームDAYへの出店、物産展、NHKラジオの取材、環境省協力事業、遠野被災地ボランティア事前検討会、その他）、ボランティアセンター関連（東京メトロ飯田橋駅ボランティア実施報告、外国人おもてなし語学ボランティア講座実施報告、グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進）、今後のスケジュール
第4回	7月26日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（銀座ミツバチボランティア、会話の見える化アプリ体験、富士山トレイル整備ボランティア、SMBC日興証券コラボ企画、ゴールボール体験教室、ベイラー大学打ち合わせ予定、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（避難所体験、防災ゲームDAY、物産展、千代田区みらいの防災リーダー、遠野被災地ボランティア事前検討会、その他）、ボランティアセンター関連（東京2020オリンピック・パラリンピック大会ボランティア説明会）、今後のスケジュール
第5回	9月27日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（子供音楽ボランティア、法政クリーンfes、富士山トレイル整備ボランティア、MIWまつり、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（東北被災地ボランティア、千代田区みらいの防災リーダー講座、法政フェア、まちのわイベント、地域防災について私たちのできることを考える、その他）、ボランティアセンター関連（学生サポートセンター補助金の推薦について、DNP×法政フェンシング応援イラストコンテスト、パラバドミントン世界選手権観戦ツアー、神保町ブックフェスティバル運営ボランティア）、今後のスケジュール
第6回	10月25日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（ユニバーサルシアター、MIWまつり、ある日突然難病になったら、富士山トレイル整備ボランティア、ベイラー大学との合同ボランティアツアー、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（まちのわイベント、地域防災について私たちのできることを考える、法政大学の避難所訓練、代表の交代について、その他）、ボランティアセンター関連（パラバドミントン世界選手権観戦ツアー、DNP×法政 フェンシング応援イラストコンテストニュースリリースについて、パラパワーリフティング世界選手権観戦ツアー）、今後のスケジュール
第7回	11月22日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（富士山トレイル整備ボランティア、犬とのふれあいを通して保護犬の現状を知ろう、ユニバーサルシアター、街の緑を守ろう〜都市部における自然保護ボランティア、ベイラー大学との合同ボランティアツアー、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（わんぱくこどもまつり、地域防災について私たちのできることを考える、子供・音楽ボランティア、法政大学の避難所訓練、福島スタディツアー、ファシリテーション講座）ボランティアセンター関連（神保町ブックフェスティバル、DNP×法政フェンシング応援イラストコンテスト、共立女子大ボランティア〜イザカエルキャラバン！、外国人おもてなし語学ボランティア講座、ポッチャ東京大会、その他）、今後のスケジュール
第8回	12月20日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（キャンパス周辺清掃ボランティア、エコキャップ回収ボランティア、スターバックスコーヒージャパンの取り組みから見るごみ削減 手話狂言鑑賞教室事前研修、手話狂言鑑賞教室、ベイラー大学との合同ボランティアツアーについて、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（学食企画、学生ボランティア説明会、福島スタディツアー、ファシリテーション講座、気仙沼児童館ボランティア、岩手・宮城スタディツアー、その他）、ボランティアセンター関連（千代田区内近隣大学の高等教育強化コンソーシアムポスターセッション、犬の譲渡会ボランティア、手話入門講座、共立女子大スポーツフォーラム、九段靖国周辺清掃ボランティア、合同定例会、ボランティア説明会、その他）、今後のスケジュール

【付記】 ●運営委員会は市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。

●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成）に照らし合わせて判断。

2018 年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2018 年度）：

【市ヶ谷ボランティアセンター】

- （１）東京 2020 に関する講座の実施
- （２）近隣の施設と連携した新規プログラムの実施
- （３）キャンパスボランティアセンターの連携
- （４）震災復興支援ボランティアの取り組みの継続
- （５）基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施
- （６）学内イベントの継続的实施と見直しの実施
- （７）学生スタッフの育成

2. 2018 年度活動の特徴

市ヶ谷ボランティアセンターでは、前出の「活動目標」を達成するために日々活動を行った。

（１）東京 2020 大会に関する講座の実施

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の要請をうけ、ボランティアセンターでは「ユニバーサルシアター」などの東京 2020 応援プログラムを 33 プログラム実施した。

大会運営ボランティアの募集要項が発表されたことを受け、7 月 2 日に本学に組織委員会の方々を講師としてお招きし、説明会を実施した。募集要項の説明と各ボランティア担当者から具体的にどのようなボランティアをするか説明していただいた。本説明会は遠隔会議システムを用いて 3 キャンパスで実施し合計 388 名の参加者があり、組織委員会と連携しながら、学内の東京 2020 大会の気運の醸成に貢献した。

（２）近隣の施設と連携した新規プログラムの実施

●神田すずらん商店街振興組合が主催する「神田すずらん祭り」にポッチャの体験コーナーとして参加した。

また、すずらん祭りの運営に関してのボランティアも行った。

●12 月には千代田区は主催した千代田区内近隣大学の高等教育連携強化コンソーシアムのポスターセッションに参加した。ポスターを 2 つ準備し発表することで、本学のボランティア活動の周知することができた。

（３）キャンパスボランティアセンターの連携

全学ボランティアセンター運営委員会を 2019 年 1 月に実施し、各キャンパスの活動報告を行い、問題点、課題などを共有した。また他大学と連携として六大学連絡協議会を 7 月に明治大学で行った。

（４）震災復興支援ボランティアの取り組みの継続

●環境省と樽葉町との連携事業の継続的な実施

「環境省・電通連携事業」として樽葉町で稲刈りを実施した。

●被災地ボランティアツアー、被災地スタディツアーの継続実施

ボランティアセンター学生スタッフが主体となり、福島被災地スタディツアー、岩手・宮城スタディツアー、東北被災地ボランティアツアーを継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深めることができた。また本取り組みは電通育英会助成事業として採択され 100 万の助成金をいただいた。

- 大学でできる被災地支援の実施

学食(法政大学生生活協同組合)とボランティアセンター学生スタッフのコラボ企画として、「お昼ご飯で被災地へ」と銘打ち、東日本大震災の傷跡が依然残っている福島県と北海道胆振東部地震で被災した北海道にちなんだメニューを提供し、被災の風化防止活動を行った。

- (5) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施

- 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

2017年度に引き続き、東京メトロと連携し大学周辺にある飯田橋駅の安全性の向上と「見守る目」の強化のため、本学学生が介助を必要とする駅利用者へのお声かけ、道案内などのボランティアを実施した。ボランティア活動を行うにあたり研修を受け、学生たちの都合のよい時間に各々が飯田橋駅を訪ね、ボランティア活動を実施した。また、毎月一回の定例会、本活動を広報するために12月に行われたボランティア報告会への参加を行った。さらに学生主体で参加者にアンケートを実施し、今年度の問題点を確認するとともに、次年度に向けての改善を東京メトロに提案した。3月6日には法政大学で東京メトロの社員を招き活動報告会を行い、東京メトロより感謝状と記念品の授与された。

- 富士山清掃ボランティアの見直しの実施

例年、行われていた富士山清掃ボランティアについては今年度はトレイル整備ボランティアに内容を変更し実施した。内容を昨年と変更することで昨年に続き継続して活動する学生に対して新たな学びを提供することができた。

- (6) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施

- 企業と連携してイベントを実施

SMBC 日興証券と連携して子供たちにパラスポーツ体験をしてもらうプログラムを実施した。プログラムはSMBC 日興証券に所属しているプロのパラアスリートの方々に協力いただきデモンストレーションを行う、プロ選手に教えてもらいながらパラスポーツを体験するなど、子供たちがパラスポーツを身近に感じてもらえるようなプログラムとして実施することができた。

- 多種多様な学生スタッフ企画の実施

学生スタッフの発案により、「都市と地域をつなぐ銀座ミツバチボランティア」「ある日突然難病になったら?」「被災の現場で役立つファシリテーション講座」「スターバックスコーヒージャパン(株)の取り組みから見るごみ削減」等数々の新規のプログラムを実施することができた。
さらに「富士山外来植物駆除ボランティアツアー」「ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング」などの人気企画についても継続して実施することができた。

- (7) 学生スタッフの育成

- 学生スタッフ研修の継続実施

8月及び12月にピアネット研修会を行い学生スタッフが参加した。

- 学生イベントの企画・運営支援

学生スタッフが開催するミーティング(VSP、チーム・オレンジ)に毎週参加し、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて、企画の促進、アドバイス、相談等を行った。

2018 年度 市ヶ谷ボランティアセンター イベントカレンダー

実施日	イベント・講座・訪問先	団体名、講師、協力先
4月3日(火)～6日(金)	新歓ピラ回収ボランティア	VSP
4月9日(月)～13日(金)	春のボランティア WEEK	学内 6 ボランティアサークル、(VSP、チームオレンジを含む)
4月9日(月)～13日(金)	食べ物求めています～フードバンク	セカンドハーベスト・ジャパン、VSP
4月19日(木)	エコキャップ DE キャンパスツアー	VSP
4月20日(金)	SMBC 日興証券に所属するバラスリートとの意見交換会	SMBC 日興証券、VSP
4月20日(金)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
4月24日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4月～7月	えこびよん×くまもんコラボグッズプロジェクト	HU、VSP
5月14日(月)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
5月15日(火)	[東京 2020 応援プログラム] 富士見坂庭園に救助犬がやってくる！～ふれあいから学ぶ犬との共生～	災害救助犬ネットワーク 津田光氏、VSP
5月18日(金)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
5月20日(日)	[東京 2020 応援プログラム] 富士山外来植物駆除ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
5月23日(水)	[東京 2020 応援プログラム] インクルーシブデザインワークショップ体験会	インクルーシブデザイン・ソリューションズ
5月23日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
5月26日(土)	[東京 2020 応援プログラム] 第 32 回神田すずらんまつりボランティア [東京 2020 応援プログラム] 神田すずらんまつりポッチャ体験教室 (ブースポスター) ～ポッチャってなに？	神田すずらん通り商店街振興組合、神田すずらんまつり実行委員会 神田すずらん通り商店街振興組合、神田すずらんまつり実行委員会、VSP
5月29日(火)	[東京 2020 応援プログラム] 保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアー	ネコリハビリック池袋店
5月31日(木)	[東京 2020 応援プログラム] ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	日本ブラインドサッカー協会、VSP
6月2日(土)	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座①	東京都
6月2日(土)	料理 de 難民を知る～郷土料理が味をえる世界の料理教室～	シャンティ国際ボランティア会、VSP
6月9日(土)、16日(土)	東京メトロ飯田橋で行う地域サポートボランティア研修会	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月13日(水)	グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進	遠野・山・里暮らしネットワーク、チーム・オレンジ
6月14日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6月15日(金)	あの子の気持ち～疑似体験を通して発達障害を理解しよう～	ADDS 加藤愛理氏、VSP
6月16日(土)	災害救援ボランティア講座 (1 日目)	災害救援ボランティア推進委員会
6月16日(土)	学んで遊ぶ子ども食堂ボランティア	高円寺こども食堂、VSP
6月20日(水)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
6月20日(水)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
6月21日(木)	" 会話の見える化アプリ体験！～音声認識&多言語翻訳で会話をリアルタイム表示～ (UD トーク)	シャムロック・レコード 青木秀仁氏、VSP
6月22日(金)	[東京 2020 応援プログラム] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会①	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
6月23日(土)	災害救援ボランティア講座 (2 日目)	災害救援ボランティア推進委員会
6月23日(土)	東京 2020 学園祭 the2nd	東京 2020 オリパラ組織委員会
6月25日(月)	[東京 2020 応援プログラム] 都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア (事前講義)	人間環境学部高田雅之教授、銀座ミツバチプロジェクト、VSP
6月26日(火)・27日(水)	ポッチャ体験教室 (正面前広場)	CSK、VSP
6月30日(土)	災害救援ボランティア講座 (3 日目)	災害救援ボランティア推進委員会
7月1日(日)	[東京 2020 応援プログラム] 都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア (ファームエイド)	銀座ミツバチプロジェクト、VSP
7月1日(日)	[東京 2020 応援プログラム] 避難所体験～東日本大震災から学んだこと	(災害救援ボランティア推進委員会)、チーム・オレンジ
7月2日(月)	東京オリンピック・パラリンピック競技大会ボランティア説明会	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
7月4日(水)	[東京 2020 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] SMBC 日興証券×法政大学 地域のこどもたちにバラスーツを知ってもらおう	千代田区ふじみわんぱくひろば、SMBC 日興証券、VSP
7月4日(水)	東北・熊本物産展 (ブレ販売)	HU、チーム・オレンジ、VSP
7月5日(木)・6日(金)	東北・熊本物産展	HU、チーム・オレンジ、VSP
7月5日(木)	見えないけど見えている？ゴールボール体験教室	日本ゴールボール協会、VSP
7月7日(土)	防災ゲーム Day ～そなエリア東京	防災教育普及協会、災害救援ボランティア推進委員会、チーム・オレンジ
7月9日(月)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
7月10日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
7月13日(金)	[東京 2020 応援プログラム] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会②	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
7月20日(金)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
8月1日(水)	[千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 手話でお話ししよう「手話とは？」@ふじみわんぱくひろば (事前説明会)	千代田区ふじみわんぱくひろば、わたがし
8月2日(木)	[千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 手話でお話ししよう「手話とは？」@ふじみわんぱくひろば	千代田区ふじみわんぱくひろば、わたがし
8月2日(木)、3日(金)	[東京 2020 応援プログラム] 東北被災地支援ボランティアツアー下見	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8月10日(金)	[東京 2020 応援プログラム] 東北被災地支援ボランティアツアー事前説明会	チーム・オレンジ
8月20日(月)～8月24日(金)	[東京 2020 応援プログラム] 東北被災地支援ボランティアツアー (34、35 次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8月21日(火)	[東京 2020 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] ふじみわんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア事前研修①	VSP
8月23日(木)～27日(月)	[東京 2020 応援プログラム] 東北被災地支援ボランティアツアー (36、37 次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8月24日(金)	[東京 2020 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] ふじみわんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア事前研修②	VSP
8月27日(月)	[東京 2021 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] ふじみわんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア事前研修③	VSP
8月28日(火)	ふじみわんぱくひろば子供・音楽ボランティア	千代田区ふじみわんぱくひろば、VSP
8月29日(水)	集めて、拾って法政クリーン fes	VSP
8月30日(木)	[東京 2020 応援プログラム] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会③	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
9月2日(日)	[千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 千代田区みらいの防災リーダー育成講座ボランティア	千代田区 政策経営部 災害対策・危機管理課、チーム・オレンジ
9月13日(木)	東北被災地支援ボランティア報告会	チーム・オレンジ
9月17日(月)	東北熊本物産展@法政フェア	HU、チーム・オレンジ、VSP
9月20日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
9月25日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
9月28日(金)	[東京 2020 応援プログラム] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会④	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ

概 要	学生参加者数	(内) 留学生数
過剰な新歓ピラに関する学生の自主企画 (2018 年度約 11,150 枚回収)	—	—
学内ボランティアサークルの新入生勧誘 (活動紹介展示 & 説明会)	60	0
学生企画で賞味期限内の食品を 22kg 回収、回収業者に持参	—	0
新入生と VSP メンバーでエコキャップを回収しながら、新入生に大学構内案内をする	10	0
7 月の児童館でのプログラムに關しての打ち合わせ (バラスリートの所属企業)	6	0
地域 (千代田区) の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動 (雨天時は中止)	7	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	3	0
物産展での販売を基本にしたオリジナルグッズの企画	—	—
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	3	—
災害救助犬について知識を得ながら実際に触れ合うことのできるワークショップも行う	30	3
地域 (千代田区) の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動 (雨天時は中止)	8	0
富士山麓に生息する侵略的外来種 (植物) などの駆除作業と、樹海のトレッキング活動	38	0
プロセスの上流から巻き込むデザイン手法 (インクルーシブデザイン) について学ぶ	21	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	雨天中止	
地域貢献ボランティア活動、神田すずらんまつりでの運営ボランティア	15	0
地域貢献ボランティア活動、神田すずらんまつりでパラリンピック正式種目ボッチャについての紹介ボランティア	12	0
保護ネコカフェのボランティア活動について学ぶ	22	0
ブラインドサッカーに關してゲームを通しチームビルディングを学ぶ	15	0
東京 2020 をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	59	2
パキスタンの家庭料理「カラヒ」を作り、難民について理解を深める	12	1
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修	35	0
グリーンツーリズムを活用した被災地の地域コミュニティづくりについて学ぶ	31	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	7	0
講義や疑似体験から発達障害について学び、自分とは異なる人を理解していく	16	0
3 日間の受講者は上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定証が取得可能	23	4
高円寺こども食堂での無料学習塾や、食事の手伝いをする	6	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	5	0
地域 (千代田区) の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動 (雨天時は中止)	雨天中止	
東京 2020 をふまえた外国人や聴覚障がい者の手助けとなるアプリについて、開発者から直接、開発意図や使い方などを学ぶ	18	1
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会 (月 1 回)	8	0
災害模擬体験と実技、災害時のチームビルディングとリーダーシップについて学ぶ	23	4
大学連携 '18 イベント東京 2020 学園祭 the2nd	4	0
銀座でミツバチを飼育しているミツバチプロジェクト、人間環境学部高田教授からの講義	21	0
東京 2020 気運醸成のため、正式バラスポーツ競技種目ボッチャを学内にアピール	131	0
応急手当 (上級救命技能講習)、認定証授与	23	4
銀座ファームエイドでのボランティア活動 (設営、物販のお手伝いなど)	14	0
非常食の試食、避難所運営ゲーム、防災クイズ・カルタなどで防災についての知識を身に着ける	33	0
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の大会ボランティアについての説明会	388	—
ふじみわんぱくひろばで子供たちにバラスポーツを体験してもらうプログラムを実施、プロバラスリートの調整や競技用車いすの手配なども行う	14	0
学生が選んだ東北の名産品を販売する	10	—
学生が選んだ東北の名産品を販売する	25	—
パラリンピック正式種目ゴールボールを体験する	9	1
防災教育普及協会からの要請で防災イベントで防災カルタを説明する	8	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	7	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	6	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会 (月 1 回)	3	0
地域 (千代田区) の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動 (雨天時は中止)	高温のため中止	
わたがし企画、ふじみわんぱくひろばで子供たちに手話を教えるプログラム事前研修会	31	0
わたがし企画、ふじみわんぱくひろばで子供たちに手話を教えるプログラム	31	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア下見	3	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア事前説明会	29	1
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	19	1
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なう子ども向けの音楽ボランティアのための事前研修	5	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	17	0
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なう子ども向けの音楽ボランティアのための事前研修	6	0
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なう子ども向けの音楽ボランティアのための事前研修	23	0
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なう子ども向けのクイズなどを交えた音楽ボランティア	27	0
VSP 企画、キャンパス周辺清掃とエコキャップ回収、キャンパス案内をまとめたもの、スポ GOMI 形式で行う	12	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会 (月 1 回)	8	0
千代田区主催の子供向け防災イベント	4	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア、学生からの報告 (隊別)	22	1
被災地支援のために東北の物産を販売	16	0
地域 (千代田区) の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動 (雨天時は中止)	雨天中止	
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	雨天中止	
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会 (月 1 回)	8	0

9月30日(日)	[東京 2020 応援プログラム] ヒューリック・ダイハツ JAPAN バラバドミントン国際大会 2018 観戦ツアー	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
10月5日(金)	キャンパス周辺清掃ボランティア	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、VSP
10月6日(土)	千代田区男女共同参画センター第6回 MIW 祭り ポッチャ体験教室	VSP
10月6日(土)	まちのわ防災 Festa (飯田橋グランブルーム)	VSP
10月6日(土)、7日(日)	～環境省・電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」稲葉町での稲刈り	IVUSA、荒川ゼミ、知能ロボット研究室、チーム・オレンジ
10月11日、18日、25日、11月8日、15日、22日、29日、12月6日(木)	手話講座	環境省、電通、稲葉町、チーム・オレンジ
10月12日(金)	エコキャップ回収ボランティア	NHK 手話キャスター中野佐世子氏
10月15日(月)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
10月16日(火)	[東京 2020 応援プログラム] ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く～音声ガイド作成プロセスを学び豊かな表現力を身につけよう！(映画入門編)	VSP
10月19日(金)	ある日突然難病になったら？～難病や共生社会への理解を深めよう～	シティ・ライツ、シネマチュブキタバタ、VSP
10月19日(金)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	希少難病ネットつながる 香取久之氏、病氣と生きるプロジェクト 麻田モモカ氏、VSP
10月25日(木)	[東京 2020 応援プログラム] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会⑤	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
10月25日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
10月27日(土)	富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり」	VSP
10月27日(土)、28日(日)	神保町ブックフェスティバル	千代田区ふじみわんぱくひろば、アカデミー合唱団、パフォーマンスサークルすだま、児童文化研究会
10月28日(日)	[東京 2020 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 富士山トレイル整備ボランティアツアー	神保町ブックフェスティバル実行委員会、VSP
10月29日(月)	[東京 2020 応援プログラム][千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム]DNP×法政フェンシング応援イラストコンテストスキルアップ講座<第1回>・公開練習・体験会	富士山クラブ、VSP
10月30日(火)	～犬との「触れ合い」を通して保護犬の現状を知ろう～	DNP
11月5日(月)	キャンパス周辺清掃ボランティア	はーと in はーと ZR 池上奈穂氏、VSP
11月10日(土)	地域防災について私たちができることを考える	VSP
11月12日(月)	エコキャップ回収ボランティア	麹町消防団 遠藤伸也氏、チーム・オレンジ
11月13日(火)	[東京 2020 応援プログラム] ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く～音声ガイド作成プロセスを学び豊かな表現力を身につけよう！(映画制作編)	VSP
11月15日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	シティ・ライツ、シネマチュブキタバタ、VSP
11月16日(木)	[東京 2020 応援プログラム] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア 本社訪問	VSP
11月16日(木)	[東京 2020 応援プログラム][千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム]DNP×法政フェンシング応援イラストコンテストスキルアップ講座<第2回> 公開練習・体験会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
11月17日(土)	ポッチャ東京カップ 2019 予選～大学選手権東日本大会～	DNP
11月17日(土)	街の緑を守ろう！～都市部における自然保護ボランティア～	日本ポッチャ協会
11月17日(土)	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座②	有機クラブ 北鬼江いより氏、VSP
11月20日(火)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	東京都
11月20日(火)	[東京 2020 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] DNP×法政車いすフェンシングデモンストレーション	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
11月21日(水)	[千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア	DNP
11月22日(木)	教職員に教える地域防災	千代田区ふじみわんぱくひろば、VSP
11月26日(月)～30日(金)	学食企画～お昼ご飯で被災地へ～	庶務課、チーム・オレンジ
12月1日(土)	千代田区内近隣大学の高等教育連携強化コンソーシアム ポスターセッション	学生生協、チーム・オレンジ
12月5日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	千代田区(近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム)、VSP
12月8日(土)	学生ボランティア募集説明会(環境省・電通)	VSP
12月9日(日)	[東京 2020 応援プログラム]《電通育英会助成事業》福島被災地スタディツアー	環境省、電通、チーム・オレンジ
12月10日(月)	災害の現場で役立つファシリテーション講座	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
12月12日(水)	エコキャップ回収ボランティア	鈴木まり子氏、チーム・オレンジ
12月18日(火)	スターバックス コーヒー ジャパンの取り組みから見るごみ削減	VSP
12月20日(木)	手話狂言鑑賞教室(事前講座)	スターバックスコーヒージャパン 普川玲氏、VSP
12月20日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	日本ろう者劇団 小泉文子氏、NHK 手話ニュースキャスター 中野佐世子氏、VSP
12月22日(土)	合同定例会(ボランティア活動報告)	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
12月22日(土)	55・58年館清掃ボランティア	キャンパス・エコロジー・フォーラム、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、チーム・オレンジ、VSP
1月18日(金)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
1月18日(金)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	VSP
1月26日(土)	手話狂言鑑賞教室	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
2月5日(火)	学生ボランティア団体助成事業表彰式	日本ろう者劇団 小泉文子氏、VSP
2月20日(水)	電通育英会助成金面接	学生サポートセンター、チーム・オレンジ
2月20日(水)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	電通育英会、VSP
2月22日(金)	キャンパス周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
2月22日(金)	岩手・宮城スタディツアー事前説明会	VSP
2月23日(土)、24日(日)	フェアウェル Days	チーム・オレンジ
2月23日(土)	わんぱくひろばで行う防災アートフェスタ	55／58きおくプロジェクト、VSP、チーム・オレンジ
2月23日(土)、24日(日)	常葉学園大学(静岡県) 図上訓練	千代田区わんぱくひろば、チーム・オレンジ
2月27日(水)	復興支援大学校(立教大)	静岡県ボランティア協会、常葉学園大学、チーム・オレンジ
3月1日(金)～4日(月)	《電通育英会助成事業》岩手・宮城スタディツアー	復興大学、立教大学、チーム・オレンジ
3月6日(水)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
3月11日(月)、12日(火)	バイラー大学との合同ボランティアツアー	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
3月11日(月)	[東京 2020 応援プログラム] [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] DNP×法政イラストコンテスト表彰式	バイラー大学(テキサス州)、荒川区社会福祉協議会、国際交流課、VSP
3月20日(水)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	DNP
3月24日(日)	防災教育実践交流会(京都周辺の大学)	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合

127 プログラムに 2,342 名参加 (学生のみカウント)

東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	8	0
パラバドミントン国際大会の情報発信や観戦促進の協力要請があり参加	15	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	16	0
千代田区地域貢献ボランティア MIW 祭りでのポッチャ体験イベントを行う	6	0
地域貢献ボランティアの1つ、飯田橋グランブルームの防災イベントに参加	47	0
環境省、電通の連携事業の1つ、休耕田を利用した稲刈り	4	0
手話講座入門（手話ゲームブック）	23	1
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	17	1
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	13	0
視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターについて学ぶ	15	3
難病について講義やワークショップを通じ学ぶ	18	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	雨天中止	
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	4	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	3	0
千代田区の児童施設でのハロウィンイベントでの受付や演奏、マジックなどのボランティア	38	0
神保町のブックフェスティバルの運営お手伝いボランティア	32	6
富士山麓のトレイル整備ボランティアツアー、富士山麓の環境学習もあり	38	8
バラスポーツの車いすフェンシングの競技の魅力をイラストコンテストにより発信するためのイラストスキルアップ講座、公開練習	20	0
保護犬の保護活動の現状を理解し、触れ合いにより動物保護の意識をもってもらう	46	4
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	4	0
消防団への理解と、AEDの講習、東日本大震災「無念」の映画上映など	9	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	11	0
視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターの音声ガイドを作成する	8	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	6	0
東京メトロ本社に訪問し、メトロ社員から直接お話をきく	5	0
バラスポーツの車いすフェンシングの競技の魅力をイラストコンテストにより発信するためのイラストスキルアップ講座、公開練習	25	0
パラリンピックスポーツとしての「ポッチャ」を広く誰でも参加できる大会として実施	4	0
VSP企画、公園での農作業を通じ、環境保護について考える	9	0
東京2020をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	53	3
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	1	0
バラスポーツの車いすフェンシングの競技の魅力をイラストコンテストにより発信するためのデモンストレーション	113	—
VSP企画、千代田区の児童施設での音楽ボランティア	15	0
チーム・オレンジによる法政大学職員のための防災講座（防災カルタ・避難所運営ゲーム）	14	0
東北・熊本被災地にちなんだメニューを富士見校舎食堂（市ヶ谷）、東館食堂（小金井）、6号館食堂（多摩）の3キャンパスにて提供。2,292食販売。	12	0
千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム開設記念シンポジウム	6	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	8	0
環境省と進めるボランティア活動の説明。原子力、福島の新米についての話を聞く	2	0
福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことが目的。各地の復興の現状を見学できる	42	2
災・減災対策の一環として災害の現場でのファシリテーターの重要性を学ぶ	18	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	6	0
プラスチック廃棄物の削減について、スターバックス・コーヒー・ジャパン側より講師を招き、考える	25	0
手話狂言をより深く理解し、鑑賞教室へ臨むための講習会	21	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	3	0
VSP、チームオレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、キャンパス・エコロジー・フォーラム4団体によるボランティア活動の交流会	15	0
55・58年館の解体前に感謝を込めて清掃をする	7	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	11	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	4	0
国立能楽堂で春の手話狂言鑑賞教室での鑑賞会	16	0
学生ボランティア団体助成金授与の表彰式に参加	2	0
電通育英会の助成金補助を受けるための面接	1	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	4	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	7	0
岩手・宮城スタディツアーの事前説明会	13	0
解体される55・58年館に感謝の意を込めたボランティア活動の紹介	15	0
児童館に集まる子どもたちへの防災啓発、防災クイズ、災害ロボット操縦体験	9	0
静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練	1	0
被災地支援についての他大学との交流会	2	0
岩手県遠野市、釜石市・宮城県気仙沼でのスタディツアー	31	0
学生企画の東京メトロ飯田橋でのボランティア活動の報告会	17	0
海外交流協定大学ベイラー大学の学生と日本でのボランティアを体験（子ども食堂・おもちゃ図書館、東京観光、日本食文化体験など	13	0
バラスポーツの車いすフェンシングの競技のイラストコンテスト表彰式	4	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	5	0

1. 春のボランティアWEEK

日 時

【展示・冊子配布】2018年4月9日（月）～13日（金）終日

場 所

外濠校舎 1 階 メディアラウンジ

概 要

ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボラセン所属学生団体を紹介することで、新メンバーを求める各サークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対して支援しました。

ボラセンの認知度アップと VSP の新メンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげていきます。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生への相談に応える姿が見られました。

学生主体による SNS での宣伝や説明会前のピラ配りを行い、イベントの認知度が高まり、また説明会会場を外濠校舎 1 階メディアラウンジにしたことで集客の効果がありました。

説明会では、各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、新入生の相談の対応、学生スタッフ自身も他団体について理解を深めることができました。

今回は、学生が自主的に「フードバンク」について知ってもらおうと春ボラ期間中に、会場内に食品の回収 BOX を設置。期限内の食品を回収し、ボランティアの観点から食品ロスについて考え、学内の認知を深めていきました。

学生参加者数

説明会：60 名

春のボランティアWEEK

4/9(月)～4/13(金)

外濠1階メディアラウンジ
(セブンイレブン横)

～参加団体～

- ・キャンパス エコ
- ・児童文化研究会
- ・チームオレンジ
- ・わたがし
- ・ACIプロジェクト
- ・IVUSA (NPO法人国際ボランティア学生協会)
- ・SEET
- ・VSP
- ・東京メトロ飯田橋駅学生ボランティア

ボランティア団体に認める価値が沢山！是非お気軽に寄ってみてください。昼休みには先輩たちも相談に乗ってくれます♪

【問合せ】
市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター隣）
【電 話】 03-3264-9516
【e-mail】 ichigaya-vc@hosei.ac.jp
【開 室】 月～金（土日祝日除く）9：00～17：00



東京メトロ飯田橋駅ボランティアの説明



VSP ブースでの説明

2. 食べ物を求めています～フードバンク

日 時 2018年4月9日（月）～13日（金）終日

場 所 外濠校舎 1 階 メディアラウンジ

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が、4月9日（月）～13日（金）春のボランティア WEEK 期間中に、特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパンの協力のもと、「食べ物求めています～フードバンク」を学内で実施しました。

日本ではまだ安全に食べられるにも関わらず、廃棄される食べ物＝食品ロスが毎年 500～800 万トンにものぼるとわれています。中には開封されずに廃棄された手付かずの食品も含まれています。

その一方で、日本には食事に不自由している人が多くいます。厚生労働省の 2010 年度調査では、日本の相対的貧困率は 16%と戦後最悪となり、国民の 6 人に 1 人が貧困線以下の生活を強いられています。食べられることなく棄てられる食品がある一方で、その日の食事に事欠く人がいます。フードバンクはそうした方と食べ物を結び、食の不均衡を解決する一躍となっています。

春のボランティア WEEK 期間中に新入生へのボランティア活動の告知も含め、身近にあるボランティア活動としてフードバンクの食品回収 BOX を設置、回収活動を行いました。5 日間の回収結果は複数の種類の食料 22 kg となり、学生へのフードバンク、食品ロスへの意識づけの一助となりました。



フードバンク食品回収 BOX



フードバンクへの呼びかけ

3. エコキャップ DE キャンパスツアー

日 時 2018年4月19日(木) 昼休み

場 所 外濠校舎、富士見坂校舎の各施設、
キャップ回収箇所

概 要

4月19日(木)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(以下VSP)が「エコキャップDEキャンパスツアー」を実施し、10名の学生が参加しました。

VSPは学内に設置されているペットボトルキャップの回収容器から、定期的にペットボトルキャップを回収しており、集めたペットボトルキャップは、一定量まで集め、無料で回収業者に回収してもらい、世界の子供たちへのワクチン代などにする活動をしています。2017年度は、325kgのペットボトルキャップを回収しましたが、本活動の認知度は高くありません。そこで、この回収活動を新入生に関心を持ってもらうため、ペットボトルキャップの回収ポイントをまわりながら、「学内の知られていない施設を学生目線で案内する」というボランティアイベントを昨年同様実施いたしました。VSPのメンバーは、参加者とエコキャップを回収しながら、外濠校舎と富士見坂校舎を効率よく案内することができました。

〔企画学生の感想〕

今年度から昼休みの時間が10分短くなったため、ルートを変更しなくてはなりませんでした。そこで、全地点間の移動所要時間を計測し、今まで回っていた地点を取捨選択したり、新たな地点を加えた新ルートを作成しました。また、企画スタッフ内で、入学して間もない頃に分かりづらかったことや、市ヶ谷キャンパスについて知らなかった豆知識などを出し合い、それらを案内内容に盛り込むことで、新入生のこれからの学生生活に役立つ案内ができたかと思います。

VSP 企画学生スタッフ 経営学部2年 菅 結菜

・主なコース(経路)

ボランティアセンター～外濠校舎4階～富士見坂校舎3階～富士見坂校舎2階～外廊下(ラーニングcommons前)～図書館前～ピロティ(掲示板)～ゲート棟前正面階段～外濠校舎1階～外濠校舎地下1階～外濠校舎1階～ボランティアセンター

学生参加者数 10名



ピロティでの説明



外濠校舎1階のエコキャップ回収

外濠・富士見坂でまよわない！
先輩のオススメスポットを教えよう！

新入生
必見！

学内のあ
なたの住
みやすい
場所を
キャッチ！

ボランティアセンター学生スタッフVSP
エコキャップDEキャンパスツアー

4月19日(木)
12:40～13:00 お昼休み

12:35 学生センターよこ
ボランティアセンターに集合！

学内の不案内、ステキな
スポットがわかります。
エコキャップ回収をしな
がら私たちといっしょに
歩いてみましょう。

*ボランティアセンター
VSPスタッフ

キャップ約500個＝ワクチン1本分

エコキャップは
リサイクルされ
再生資源製薬やワクチ
ン代になります。

ワクチン製
薬

ペット 傘など

●お申込は… 市ヶ谷ボランティアセンター ⇒ 窓口にて申込書記入
●お問合せは… 市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)
TEL: 03-3264-9516 メール: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

4. SMBC日興証券に所属する パラアスリートとの意見交換会

日 時 2018年4月20日（金）

場 所 千代田区丸の内SMBC日興証券本社ビル

概 要

4月20(金)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(以下ボラセンスタッフ)6名と、SMBC日興証券に所属するパラアスリート7名が、新丸ビル内のSMBC日興証券のオフィスで、法政大学の近隣のこどもたちのためにパラスポーツを体験できる企画を合同で実施するために、意見交換会を実施しました。

SMBC日興証券には、冬季パラリンピック4大会連続出場した三澤 拓（みさわ ひらく）選手をはじめとする世界で活躍する多数のパラアスリートが所属しています。現在、ボラセンスタッフは東京2020に向け、SMBC日興証券に所属するパラアスリートに協力を仰ぎ地域のこどもたちにパラスポーツの素晴らしさを体験してもらう企画を検討しています。

今回の意見交換会では学生たちが地域の児童館でヒアリングし、考案したプログラムの企画書をSMBC日興証券のパラアスリートの方々にレビューしていただき、多くのアドバイスをいただきました。今後はこの企画が実現できるように活動していきます。

学生参加者数 6名



SMBC日興証券パラアスリートの方々とボラセンスタッフの意見交換会の様子



考案した企画を説明するボラセンスタッフ

5. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

日 時 2018年4月～2019年3月

場 所 九段さくら館→ 靖国通り周辺→ 市ヶ谷駅周辺→ 九段商店街→ 九段さくら館

概 要

毎月20日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。大学周辺の地域貢献ボランティアの活動の1つになっています。

学生参加者数 のべ32名（参加者数）

日 時		参加者数（申込者数）
4月20日（金）	15:30 -17:00	7名（8名）
5月18日（金）		8名（9名）
6月20日（水）		雨天中止（1名）
7月20日（金）		高温の為中止（6名）
9月20日（木）		雨天中止（2名）
10月19日（金）		雨天中止（1名）
11月20日（火）	15:00 -16:30	1名（1名）
12月20日（木）		3名（4名）
1月18日（金）		4名（4名）
2月20日（水）		4名（4名）
3月20日（水）		5名（5名）

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP主催）

地域清掃ボランティア

市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。
「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽にできるボラ
ンティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

●キャンパス周辺清掃●
法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周りを清掃します。近所にはもちろんなく、ハットボトル飲料をプレゼント!

10月5・15・25日
(金)・(月)・(木)
12:35~13:00

●九段・靖国地区清掃●
地域の町内会の方、千代田区の無形文化財と一帯に、巡回パトロールを兼ねて清掃を行います。(9/200898)

10月19日
(金)
15:30~17:00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターでお申込みください。

お申込・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター（外環駅1階・学生センター隣）
【電話】03-3264-9516 【e-mail】kijisya-vo@ncc.ac.jp
【開室】月～金（祝日除く） 9:00～17:00

※8月はお休み、雨天・高温等の場合は中止。



九段靖国神社周辺清掃に出発!



靖国通りを清掃

6. キャンパス周辺清掃ボランティア

日 時 2018 年 4 月～2019 年 3 月 基本は毎月 1 回昼休み

場 所 市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。

基本的に月 1 回、VSP のメンバーが日程を決めています。毎回 30 分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行っています。詳細な活動日と参加者数は、下表参照。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の 1 つであり、一般学生を募集し、一緒に活動しながらボランティア活動の促進につなげていきます。

学生参加者数 のべ 77 名（参加者数）※8月、2月、3月は休み

日 程	参加者数（申込者数）
4 月 24 日（火）	3 名（5 名）
5 月 23 日（水）	雨天中止（1 名）
6 月 14 日（木）	7 名（7 名）
7 月 10 日（火）	6 名（6 名）
9 月 25 日（火）	雨天中止
10 月 5 日（金）・ 15 日（月）・25 日（木）	計 32 名（33 名）
11 月 5 日（月）・15 日（木）	計 10 名（10 名）
12 月 5 日（水）	8 名（8 名）
1 月 18 日（金）	11 名（12 名）



外濠周辺を清掃



終了後の集合写真

7. えこぴょん×くまもんコラボグッズプロジェクト

日 時 2018年4月～7月

概 要

ボランティアセンター学生スタッフVSPが、7月4日(水)～7月6日(金)に実施する「東北・熊本物産展」で販売するオリジナル商品として、「えこぴょん・くまモンコラボトートバック」と「えこぴょん・くまモンコラボマグカップ」の2点を制作しました。

トートバックは昨年度の物産展でも作製し販売しましたが、今年はランチバックとして使えるよう、工夫しました。可愛いデザインが好評でした。

また、マグカップも制作しました。えこぴょんとかまモンが小鳥を追いかけている様子が描かれています。

これらの商品の利益は、全額被災地に寄付されます。



えこぴょん・くまモンコラボマグカップ



エコぴょん・くまモンコラボトートバック

8. エコキャップ回収ボランティア

日 時	2018 年 4 月～2019 年 3 月 毎月 1 回
場 所	外濠校舎、富士見坂校舎ペットボトル回収場所
概 要	

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（以下 VSP）は、2018 年度 4 月から 12 月まで全 9 回エコキャップ回収ボランティアを実施し、延べ 69 名の学生が参加しました。

学生スタッフ VSP プログラムのエコキャップ回収ボランティアは、外濠校舎と富士見坂校舎のエコキャップを回収しました。今年度は 3 月 18 日時点で合計 353kg 回収、ワクチン本数で約 227 本になりました。回収したエコキャップは、6 月から VSP 学生スタッフが自主的に探した無料で引き取りをしてもらえる業者、アルファジャパンさんに引き取っていただいています。大学のゴミ削減とゴミ分別の推進に役立っています。

2015 年 9 月から始まったキャップ回収は、4 年目を迎えました。この活動を始めた当初のメンバーは全員入れ替わり、なんとなく実施している意識の低いものになりつつありました。そこで、今年度はこのような状況に再び陥ることがないように活動体制を整えることに力を注ぎました。

まず、初めにキャップ回収業者の選定です。5 月までは段ボールに詰めてリサイクル業者に発送していました。しかし、その配送料自体が寄付できるものであるのではないかと疑問を持ち、アルファジャパン（無料回収業者）さんに変更しました。回収箱に関しては、どこに設置してあるかの分からない状況であったのを表にリスト化し、箱に番号シールを張ることで未回収などを防止しました。さらに回収箱の大きさや設置場所の見直し、増設などを行い回収の効率化に努めました。その結果、年末時点で前年度の回収量を上回ることができました。

また、回収そのもののあり方について考えました。回収ボランティアの参加者は続けていくのが困難であるほど減少していました。そんな状況を打破しようと、どうしたら参加者が増えるのか VSP メンバーで検討し、回収日を毎月 12 日に固定するなどの試みも行いました。身近で継続性のあるこの活動は、ボランティアをしていくうえで重要な位置づけであると考えます。今後も毎月の活動を続けられるよう定期的に見直しを行い、引き続き改善をしていきたいと思います。

デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 1 年 長谷川 陸



外濠での回収風景



アルファジャパンに回収していただく

9. 富士見坂庭園に救助犬がやってくる！ ～ふれあいから学ぶ犬との共生～

日 時

2018年 5月15日（火）

場 所

外濠校舎 5 階 526 会議室（講義）
富士見坂庭園 （デモンストレーション）

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で5月15日（火）に「富士見坂庭園に災害救助犬がやってくる！～ふれあいから学ぶ犬との共生～」を実施し、30名の学生が参加しました。

地震や雪崩などで瓦礫の中に閉じこめられたり、ピクニックや山歩きなどで行方不明になった不特定な人たちを、犬の優れた嗅覚を使って見つけだす犬のことを災害救助犬といいます。今回はこの災害救助犬の育成及び、遭難者や要救助者の捜索活動を行っている NPO 法人災害救助犬ネットワークの方々を講師にお招きし、災害救助犬についてお話をいただきました。

まず初めに、災害救助犬がどのように遭難者や要救助者を探すのか、災害救助犬の適正や育つまでの過程、災害救助犬への接し方についてお話しいただきました。

その後、富士見坂庭園に移動し、リードを離した状態で介添え歩行したり、合図があるまで待ち続けたり、ボックスに隠れた学生を嗅覚で探しあてる災害救助犬のデモンストレーションをしていただきました。その後は自由時間とし、ボールがついたリードで犬と遊んだり、写真撮影をしたりして犬と触れ合う学生もいれば、災害救助犬ネットワークの方々から犬の躰について相談している学生もいました。

参加した学生たちは、私たち人間のために、働いてくれている災害救助犬に直接触れて、災害救助犬に対する理解が深まったのではないのでしょうか。

学生参加者数

30 名

市ヶ谷ボランティアセンター主催

**富士見坂庭園に救助犬がやってくる！
～ふれあいから学ぶ
犬との共生～**

犬と触れ合うことができます。

5月15日（火）

16:50～18:30 集合場所：（市ヶ谷）外濠校舎 5 階 526 会議室

【災害救助犬についてなど講義】 外濠校舎 5 階 526 会議室
【災害救助犬デモンストレーション】 富士見坂庭園
【犬のしつけ経験・ふれあい】 富士見坂庭園

※事前に災害救助犬からけい、抱きかかるといった行為は禁止されています。
※参加費は無料です。講師：NPO法人災害救助犬ネットワーク

災害救助犬について知っていますか？
ボランティアセンターでは、聴覚、視覚、嗅覚などの様々な特殊能力があり人間の役に立つ犬たちを育成しています。
災害救助犬は、地震や雪崩などで瓦礫の中に閉じこめられたり、ピクニックや山歩きなどで行方不明になった不特定な人たちを、犬の優れた嗅覚を使って見つけだす犬のことを災害救助犬といいます。今回はこの災害救助犬の育成及び、遭難者や要救助者の捜索活動を行っている NPO 法人災害救助犬ネットワークの方々を講師にお招きし、災害救助犬についてお話をいただきました。

申込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎 1 階）
Tel：03-3264-9516 Mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp



リードなしでの介添え歩行



集合写真

10. 富士山外来植物駆除ボランティアツアー

日 時 2018年5月20日（日）

場 所 富士山麓

概 要

5月20日（日）、ボランティアセンターでは「NPO 法人・富士山クラブ」の指導のもと、『富士山外来植物駆除ボランティアツアー』を実施しました。この「外来植物駆除」の活動は今年で6度目の実施となり、38名の学生が参加しました。

バスの中では、一人で参加の学生も楽しく活動できるように、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画したクイズやビンゴなどのレクリエーションを行い、参加者間の交流をはかりました。

富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、約2時間、富士山クラブの指導のもと樹海トレッキングを実施し、樹海に生息している動植物の生態を学ぶことができました。また道中では、洞窟や氷穴の中にも入洞し自然の壮大さを感じることもできました。

その後、富士山を見ながら昼食をとり、外来植物が多く生息している河口湖畔に移動し、駆除対象である「アレチウリ」の説明を富士山クラブから受けました。アレチウリは北米原産のウリ科のツル植物で、成長、繁殖力が非常に高く、日本の特定外来生物（環境省指定）植物類13種のうちの一種、また、日本の侵略的外来種ワースト100（日本生態学会指定）のうちの一種に指定されています。

説明を受けた後に、川口湖畔の水辺に生息するアレチウリの駆除を参加者全員でおこないました。

他の植物も目立つ現場で特定の植物を駆除することに苦労しましたが、慣れ始めると、楽しくなってきたようで、「もっとやりたかった」との声も聞かれました。心地よい気候の中での約2時間の活動し、大量の外来植物を駆除することができました。

活動後は、「富士山世界遺産センター」に移動し、各班にわかれ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、情報共有、振り返りを行い、外来植物駆除を広めるアイディアを発表するなど充実した活動となりました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは富士山の外来植物駆除・清掃活動を継続的に行っていきます。

学生参加者数

38名



富士の樹海に生息している植物について説明を受けている様子



駆除した外来種植物を掲げる学生

11. インクルーシブデザインワークショップ体験会

日 時 2018年5月23日(水)

場 所 富士見坂校舎 F303

概 要

東京2020応援プログラム「インクルーシブデザインワークショップ体験会」を5月23日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、21名の学生が参加しました。本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京2020応援プログラム」として認定されました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、大会組織委員会は、障がいの有無に関わらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会となるような様々な取組みを推進しています。本学学生においても、その取組みを理解し、相互の人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に貢献できるよう「インクルーシブデザインワークショップ体験会」を、開催しました。

体験会では、冒頭に講師である株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ 高山希氏から、インクルーシブデザインとは、高齢者、障が

い者、外国人など、従来、デザインプロセスから除外されてきた多様な人々を、デザインプロセスの上流から巻き込むデザイン手法であることが説明されました。次に、日頃私たちが何気なく使用しているストローや、リンスとシャンプーを見分けるためのボトルについている凹凸や、iPhoneなどは、インクルーシブデザインの思想から開発されたことが説明され、参加した学生たちは興味深く聞いていました。

その後、「絆創膏を上手に貼るには？」をテーマに2人1組になりワークショップを行いました。2名の内1人は、目が見えない、片方の手が使えないなどのハンデを設定し、絆創膏を袋からとりだし怪我をしていると想定した部位に絆創膏を貼ります。もう一方の学生は、この一連の動作観察し、1つ1つの動作を附箋に書き出していきます。

その後、何が「絆創膏を上手に貼るには？」を阻害していたかを洗い出し、課題を解決する絆創膏の形状を提案しました。参加した学生からは、片手で指に絆創膏を巻くのは困難だったので、巻きつく安全反射バンドのように、一部を貼り付けたら自動的に巻き付くような素材にしてはどうか？目が見えない状態だと表面、裏面がわかりにくいので、表面には凹凸をつけてはどうか？などのアイデアが出ました。今後も市ヶ谷ボランティアセンターではこのような障がいの有無に関わらず、共生社会の実現に貢献できるようワークショップを実施していきます。

学生参加者数 21名



目が見えないと想定して、絆創膏を袋から取り出し貼る



現状の課題を洗いだし、課題を解決する絆創膏の形状をデザインしている学生たち

市ヶ谷ボランティアセンター 主催

多様な人々をデザインプロセスの上流から巻き込む
インクルーシブデザインワークショップ体験会

Inclusive Design

5月23日(水)
16:50~18:30(5限)

場 所: 株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ シンボル
会 場: 富士見坂校舎3階 F303
参加定員: 本学学生・教職員 30名

インクルーシブデザインとは、高齢者、障がい者、外国人などデザインプロセスから除外されてきた多様な人々を、デザインプロセスの上流から巻き込むデザイン手法です。
ワークショップを通じて、共生社会の実現に貢献できるインクルーシブデザインを学んでみませんか？

申込方法: 市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
問い合わせ: 市ヶ谷ボランティアセンター(外見校舎1階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

12. 神田すすらんまつり

日 時 2018年5月26日（土）終日

場 所 神保町すすらん通り

概 要

5月26日（土）、市ヶ谷ボランティアセンターが「神田すすらんまつり」に協力し、一般学生15名、VSPスタッフ12名の学生スタッフが参加しました。神保町のすすらん通りで開催されている「神田すすらんまつり」は今年で32回目を迎え、和太鼓や吹奏楽のコンサート、読み聞かせ、水彩画教室、囲碁教室などをおこない、地域の交流促進を目的にしたお祭りです。

今回は、神田すすらんまつり実行委員会より、法政大学のポッチャの取り組みを披露して欲しいと依頼があったこと、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに所属する共立女子大や二松學舎大学などの大学や明治大学などの近隣の大学が既に協力していることから、神田すすらんまつりに協力させていただきました。今回、法政大学はポッチャ体験教室の出店、交通整理やごみの分別などの運営ボランティア、囲碁教室運営ボランティアを担当して、神田すすらんまつりに貢献しました。

ポッチャ体験教室では、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が祭りに来場した方々にポッチャのルールを教え、体験できるブースを出店し、432名の方に体験していただきました。このポッチャ体験教室は、東京2020参画プログラムにも認定されており、ポッチャを体験された方々には東京2020のピンバッチをプレゼントしました。

子供たちからお年寄りまで様々な年代の方々、フランス、カナダ、ロシアなどの様々な国籍の方々が参加しましたが、学生たちの柔軟な対応力で参加者全員にポッチャの魅力を伝え東京2020の機運を高めることができました。

また、すすらんまつりに協力してくれた他大の学生たちもポッチャ体験教室に参加してくれたり、交通整理やごみの分別などの運営ボランティア、囲碁教室運営ボランティアを大学の垣根をこえ協力して行ったりすることで近隣の大学との交流も深めることができました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは近隣の大学と連携し、地域に貢献するボランティアを積極的に行っていきます。

【参考】

千代田区内近接大学高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>

法政大学のポッチャの取り組みについて https://participation.tokyo2020.jp/jp/report/student_0009.html

学生参加者数 27名（運営ボランティア含む）



地域の方とポッチャをする



集合写真



13. 保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアー

日 時 2018年5月29日（火）
場 所 ネコリパブリック東京 池袋店

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で「猫たちに会いに行こう！～保護猫カフェで学ぶ動物愛護ツアー～」を実施し、22名の学生が参加しました。保護猫カフェは、猫の殺処分ゼロを目指し来店するお客さんが保護猫と触れ合いながら里親を探すことができる猫カフェです。また、今回訪れた保護猫カフェを経営しているネコリパブリックでは保護猫カフェの運営の他に、猫グッズの販売、猫関連のイベントを開催するなどして猫を保護するための費用を捻出しています。そのような保護猫活動のお話や、猫との触れ合いを通じて学生に保護猫カフェの活動を知ってもらうことを目的に開催しました。当日は、講師の上野佳世子氏にネコリパブリックの保護猫活動のお話をいただきました。

保護猫の里親探しは一般的に、譲渡会で行われますが、譲渡会では猫は緊張してしまい、その猫の本来の性格が分かりません。しかし、保護猫カフェでは、普通に暮らしている猫の生活を見ることができ、それぞれの猫のありのままの性格を知ることができます。来客の中にはピンときた猫の里親になってくれる方や、また一方保護猫の中には、性格が合わずカフェに戻ってきてしまう猫もいるそうです。スムーズに里親が見つかるだけでなく、その猫の本来の性格を知った上で引き取ることによって、猫と里親がお互い良好な関係を築ける可能性が高いようです。

＜参加学生の感想＞

多頭飼育崩壊など、ワイドショーなどで見かけて知ってはいたものの実感として感じられなかった問題が、実際にそういう環境に置かれていた猫と触れ合うことで、現実のものとして考えることができました。

猫たちは人間たちの都合で、居場所を失ったり、子孫を残す機会を失ったり、殺されたりと理不尽な目にあっているのでも、そのような猫を助けられるように努力していきたいと思います。

また、猫好きな人は多いのでそんな人に猫に関わる様々な問題をもっと知ってほしいと思いました。

キャリアデザイン学部 3年 中野 実織

学生参加者数 22名



保護ねこカフェの運営方法、サクラ猫などについて説明を受ける



猫の温かみにしばし癒される

14. ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング

日 時

2018年5月31日（木）

場 所

富士見坂体育館

概 要

東京2020応援プログラム「ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング」を5月31日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し15名の学生が参加しました。

本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京2020応援プログラム」として認定されました。

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけ、音のなる特殊なボールを使うフットサルです。アイマスクをつけて視界を遮ることで、全員が公平な状態でプレーすることができます。今回の企画では、ブラインドサッカーを通じて、チームビルディングに必要なコミュニケーション法を体験すると同時に、「見えない」ことがどういうことを体で感じることを主な目的としました。

プログラム中に様々なワークを行いました。特に、「見える人」と「見えない人」が混ざって試行錯誤するワークは、チームビルディングを学ぶには最適な内容でした。このワークは、頭上から後の人にボールを渡し、順番に列の後ろに並びなおして進む速さを競います。

見えない人は最後尾が分からず、ボールは渡せるものの移動ができません。お互いに、誰がボールを持っているか、列の最後尾がどこなのかを教え合うことで、スムーズにパスができるようになりました。

また、音だけを頼りにコーンにボールをあてるなどのワークも実施しました。

このプログラムを通して、それぞれのあだ名で呼び合うことで、自ずとチームメイトとの距離が近くなり、意見を出し合い雰囲気になりました。参加者には、名前を呼びあうという些細なことが、チームビルディングには非常に効果的であるということがわかっていただけたかと思います。

本プログラムを通して、障害者と健常者の間の「見えない壁」を取り払い、視覚障害者との共生に関心をもってもらうこと、仲間が主体的に自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら一丸となって共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学ぶことができたかと思います。

学生参加者数

15名



音を頼りにボールを蹴る



ボール送り競争をするワーク



15. 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

日 時 2018年6月2日（土）、11月17日（土）

場 所 55・58 年館 857 教室

概 要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京都が共同で、6月2日、11月17日に2回「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施し、合計112名の学生が参加しました。

東京都と法政大学は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、本講座を実施しており今回は本年度で5回目の実施となります。

東京都が単独で実施している本講座の受講者は、40代、50代以上の方が多く、大学と東京都が共同で実施することによって、10代、20代の参加も促せるのではないかと思います東京都と協定を締結し本講座を実施いたしました。また、東京都が単独で実施している本講座の抽選倍率は20倍～30倍であるため、共同で実施することによって本学学生が優先的に受講する場を提供することができました。

当日は、台東区谷中にある「澤の屋」という旅館を紹介した動画を見た後に、おもてなしに関する基礎知識としてコミュニケーション力と問題解決、ボランティアスピリッツについて学びました。講師の話を一方的に聴講する講座ではなく、グループワークやペアワーク通して、参加者が発表する形式であったため、全員が積極的に参加することができ、非常に満足度の高い講座となりました。最後に、この講座の参加者全員で「おもてなし5箇条」を作成し、ボランティアスピリッツを共有しました。

講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から112名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

学生参加者数 6月2日：59名 11月17日：53名

●東京都・法政大学共同実施

2020年に向けた地域をあげてのおもてなし

**外国人おもてなし
語学ボランティア育成講座**

東京都の
外国人おもてなし
語学ボランティア
として登録されます。

2018年6月2日（土） 14:00～17:30
55・58 年館 857 教室
定員60名

聞いて覚えている外国人をみかけたら積極的に声をかけ、
言葉の壁を乗り越えるボランティア。
講座終了後「外国人おもてなし語学ボランティア」として登録されます。

お問い合わせ・申し込み
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
e-mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp
http://www.hosei.ac.jp/volunteer/
TEL: 03-3264-9516



講座風景 1



講座風景 2

16. 料理 de 難民を知る ～郷土料理が味わえる世界の料理教室～

日 時 2018年6月2日(土)

場 所 千代田区富士見区民館

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が6月2日(土)に「料理 de 難民を知ろう～世界の郷土料理作り体験～」を実施し、12名の学生が参加しました。

日本では難民の受け入れが少ないため、難民に対する理解は十分ではありません。今回は難民についての理解を深めようと、前半に公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の鈴木晶子氏にワークショップと講演をしていただきました。後半は班ごとに難民国の郷土料理を作りました。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は教育を受けることが困難なアジアの子供たちに絵本を届けるなどの教育支援や、緊急救援を行っている NGO です。実際に難民キャンプなどを訪れて図書館設立、学校建設の活動も行っています。

前半のワークショップでは、自分が難民であると仮定して、国外に避難する際に、衣服やお金、防寒具などの複数の物品の中から何を持っていくか班に分かれて話し合い、発表しました。初めは15個、次に7個というように数を減らしていき、避難するうえで何が本当に必要なものであるのかじっくり考えました。ここでは、正解はなく価値観の違いについて焦点が当てられました。ワークショップを通して私たち一人一人のものに対する価値観が違うことを体感することができました。また、難民は毎日の生活の中で生死に関わる判断を強いられているということを学びました。講演では、実際に難民キャンプで生まれ育つ同年代の若者の生の声をお話していただき、難民の実態を知りました。子供や若者は教育を受けることも夢を持つこともできず、難民キャンプでの自殺率も高いそうです。毎分20人の人々が避難を余儀なくされているということで、数字で見るとさらに難民の深刻さを感じました。とても考えさせられる内容でした。

後半は、パキスタンの伝統的な家庭料理、『カラヒィ』を作りました。『カラヒィ』は鶏肉、トマト、ヨーグルト、生姜、ミックススパイスを使った煮込み料理です。この料理名はアフガニスタン、パキスタンにまたがる地域で使われている丸い鉄鍋からきているそうです。人数分よりも多く作りましたが、おいしく食べることができました。参加学生からは「家でも作ってみたい」との感想もいただき、難民国の食文化に触れながら難民について理解を深める場となりました。

《企画学生の感想》

難民について、難民の立場に立って考えるワークショップを行ったことで理解を深めることができました。また難民キャンプでの人々の自由のない厳しい現状を知り、自分のできることから支援していきたいと思いました。その後はみんなでカラヒィという料理を作りました。スパイスがよく効いて美味しく食べることができました。

一から企画を考え実施するまでは大変でしたが、難民についての理解がワークショップや料理を通じて深まり、とても充実した講座になりました。

経営学部市場経営学科 3年 山根 江莉奈



今回の企画で難民の理解を深めることはもちろん、ワークショップ、料理を通して他学部他学年の学生が交流する場を提供できたことを嬉しく思います。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の難民の気持ちを疑似体験できるワークショップ、難民の実態についての講演が大変好評でした。とてもハッとさせられることが多く、私自身も勉強になりました。現地の難民の声を聞くことはなかなかないことなのでとても貴重な経験となりました。

時間の関係上、質疑応答の時間を設けることができなかったことが反省点です。

今回、企画に携わるのが初めてで不安なこともありましたが、無事に終えることができてよかったです。

経営学部経営学科 2 年 長町 静

いざ、逃げる時に選ぶ持ち物。どうしても日本人の価値観から選んでしまう自分があり、難民の立場になって考えることの難しさを感じさせられました。

ワークショップと講義に加えて料理というプログラムがあったことで、単に知識としてだけでなく、生活面においても難民について理解が深まったと思います。

経営学部経営学科 2 年 菅 結菜

学生参加者数

12名



講師より難民キャンプの現状を聞く



避難時にどのような物を持って行くかグループで話し合う



パキスタンの伝統的な家庭料理『カラヒ』を作る



協力して無事に作ることができました！

17. 東京メトロ飯田橋で行う 地域サポートボランティア研修会

日 時	6月9日（土）、16日（土）
場 所	外濠校舎5階 526 会議室、飯田橋駅
概 要	

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、2018 年度も大学近辺の飯田橋駅で、駅構内の「見守る目」を強化するため、学生による駅構内のボランティア活動を継続して実施しています。

2017 年 6 月にスタートしたこの活動は、大学と東京メトロがこのような取り組みで連携した初の試みでした。

2 期生のボランティア活動の実施に先立ち、6 月 9 日（土）、6 月 16 日（土）に法政大学市ヶ谷キャンパスと東京メトロ飯田橋駅で事前研修会を行い 35 名の学生が参加しました。

公益財団法人日本ケアフィット共育機構を講師に招き、座学と実技を交え、活動にあった基礎知識や注意点、心構えを学びました。

まず座学では、障がい者差別解消法の説明からはじまり、障がいのレベルや内容は個人差があることから、人によってはサポートを不要としている人もいるので、必ず声がけをして確認して欲しいと話がありました。またこの他に簡単な手話などの障がい者との接し方について教えていただきました。

その後、車椅子利用者や視覚障がい者との接し方についての実技を行いました。車椅子の折り畳み方などの基本的な車椅子の取り扱い方法からはじまり、段差を乗り越える方法などを体験しました。

また視覚障がい者の気持ちを理解するために、視界が悪くなるゴーグルを装着し、どのように見えるかを確認してもらった後、2 人 1 組になり、片方が目を閉じて、もう片方が肘を掴んでもらい介添え歩行体験をしました。

この研修会の最後にペーパーテストを実施し、参加者全員がサービス介助基礎検定の資格を取得することができました。

その後、市ヶ谷キャンパスから飯田橋駅に移動し、ホームに設置されているインターホンや、出口の場所などやトイレの場所を確認しました。また、2017 年度活動してきた 1 期生からこれから活動する 2 期生にむけて注意事項や心構えについて話してもらい研修会を終えました。

学生参加者数 35 名





車いすを押して段差を乗り越える



視界が悪くなるゴーグルを装着して文字の表示を確認



1期生から2期生に注意点をレクチャー



東京メトロ職員より駅構内について解説

18. グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進

日 時 2018年6月13日(水)

場 所 外濠校舎526会議室

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で6月13日に～電通育英会助成事業～「グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進」を実施し、32名の学生が参加しました。

震災から7年経過し避難生活の長期化や、災害公営住宅等への移転など被災者を取り巻く生活環境が変化する中で被災者が安定的な日常生活を営むことができるようにグリーンツーリズムを活用し地域コミュニティ形成の促進を行っている遠野 山・里・暮らしネットワークの田村隆雅氏を講師としてお招きし、被災地の今とグリーンツーリズムの活用方法についてお話をいただきました。

また、本学OG(現代福祉学部)である田辺愛氏も講師としてお招きし、学生時代に実施した岩手県被災沿岸部と遠野市を結ぶ「地域おこしツーリズム」などの学生だからこそできる被災地の活性化について、お話をいただきました。参加した学生たちは、田村氏や田辺氏のお話を聞いて、今必要とされている被災地支援を学べたのではないのでしょうか。ボランティアセンターではこのような被災地の今を知り考える講座を今後も行っていきます。

<参加学生の感想>

私がイメージしていた被災地支援は、仮設住宅での交流や雑草除去などのボランティアでしたが、被災地に活気をとり戻すには被災地の魅力をつたえ被災地に来てもらい、住民たちと交流を深め、第二の故郷だと思ってもらえるような働きかけをしていくことが重要だと気づかされました。休暇等を利用して被災地のいいところを見つけ発信していきたいです。

学生参加者数 31名



講師の田村氏の話に聞き入る学生たち



本学OG田辺氏が学生時代に取り組んだ被災地支援の講演



19. あの子の気持ち —疑似体験を通して発達障がいを理解しよう—

日 時

2018 年 6 月 15 日 (金)

場 所

外濠校舎5階 526 会議室

概 要

6月15日(金)にボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が「東京 2020 応援プログラム」としてくあの子の気持ち—疑似体験を通して発達障害を理解しよう—を実施し、16名が参加しました。

このプログラムでは、まず発達障がいの中でも自閉症スペクトラム障がいをもつ方の一部の症状を体験してもらうワークを行いました。この障がいをもつ方は68人に1人いると言われており、決して特別な存在ではなく身近な存在です。そのような方がどのように考え生活しているのか、どのような支援を求めているのか少しでも理解してもらおうと学生が講師である NPO 法人 ADDS と考案したワークを3つ行いました。

ワーク中は、視野を狭くするゴーグル、手先の不器用さを体感する軍手、聴覚の過敏さを体験する集音器を装着した状態で、講師に扮した学生スタッフが言ったことをノートに書きとるディクテーションや、セブンイレブンでの買い物、ボール運びや自己紹介や本の読み聞かせやリボンを結ぶなどの様々なミッションをクリアしていくゲームを実施し、日常何気なくやっていることがどれだけ大変なのかということが体感できました。特に、ディクテーションでは周りの環境や話し手の話し方によって同じ内容であっても書き取れる量が大きく違うことが分かりました。

最後に、NPO 法人 ADDS 加藤愛理氏から講義をしていただきました。自閉症スペクトラム障がいは特別なものではなく、一般の健常者であっても少しはそのような側面を持っていることなど大変勉強になる講義でした。

このプログラムを通じて、発達障がいについて理解を深め、またそのような方を支援するためにもさらに詳しく学びたいと思える機会になったと思います。

＜参加学生の感想＞

障がいのある方をサポートする人の大切さを学びました。また、人だけでなく手すりや点字、補聴器などの物の配慮も必要であると改めて思いました。障がいを持つ方と健常者が「差別」するのではなく、相手に合わせた対応をして「共存」する手段を模索する必要があると考えました。

学生参加者数

16名



ゴーグル、軍手、集音器をつけた状態で
バランスをとりボールを運ぶ体験



クリアしたミッションにシールをはっていく

ボランティアセンター学生スタッフ (VSP) 企画

あの子の気持ち —疑似体験を通して 発達障害を理解しよう—

6月15日(金)
16:50 ~ 18:30 (5階)
外濠校舎5階 526 会議室

あなたの周りに
こんな方いませんか?
—少しみんなと違う、
はわりと合わせられないなど

特殊なゴーグルを使ったり、集音器を使いながら
発達障害を疑似体験し、
考え、少しずつ理解を深
めていきます。

○定員 20名
○講師 特定非営利活動法人
ADDS 職員 加藤 愛理氏

申し込み方法: 市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
問い合わせ: 市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎5階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

20. 災害救援ボランティア講座

日 時 2018年6月16日、23日、30日（毎回土曜日）

場 所 55年館574教室、柔道場、本所防災館

概 要

市ヶ谷ボランティアセンターでは、6月16日、23日、30日の全3日間、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施し23名の学生が参加いたしました。

第1日目は、市ヶ谷キャンパス55年館574会議室にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験と実技などを行い、大学に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリーダーシップ（図上訓練など）」などのグループワークを行いました。

第3日目は、上級救命技術講習として応急手当活動について実技を交え学びました。人工呼吸、AEDの使用方法、災害時などでのけがの応急処置を含めた実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は、毎年行われており全講座受講により、上級救命技術認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成を目標にしています。

＜参加学生の感想＞

災害救援ボランティア講座の受講を終えて、防災や応急処置に関しての意識が高まりました。外出の際には水を持参するなど、地震が起こる等いざという時に、身を守るための知識を教わることができ有意義でした。また、怪我をした際に三角巾一つで包帯にする処置の仕方や、また代用品で応急処置ができることを知り、今後に生かしていきたいと思います。 法学部 2年

学生参加者数 23名



1日目：災害救援ボランティアの基本講習



2日目：本所防災館での災害模擬体験



3日目：上級救命技術講習 三角巾を使った応急手当

Hosei University 市ヶ谷ボランティアセンター 千代田区地域事業

災害救援 ボランティア 講座

万が一、災害にあった時、「自分が生き残る方法」と「他人を助ける方法」を学びませんか？

受講生全員、資格が得られます！ ※全日程の出席が条件

① 上級救命技術認定証（東京消防庁より交付）
② セーフティリーダー認定証（災害ボランティア推進委員会より交付）

全3日間・定員30名（参加費無料）※開講：6月11日（月）

6月16日（土）9:00～17:00
6月23日（土）8:50～16:50
6月30日（土）9:00～17:00

※講座内容※

※第1日目（市ヶ谷キャンパス55年館574会議室）
千代田区の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生など
災害現場の初動対応とコミュニケーション（グループワーク）、災害と防災対策の基本

※第2日目（本所防災館）
災害現場の初動対応とコミュニケーション（グループワーク）、災害と防災対策の基本
災害現場の初動対応とコミュニケーション（グループワーク）、災害と防災対策の基本

※第3日目（市ヶ谷キャンパス55年館574会議室）
上級救命技術講習と実技などを行い、大学に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリーダーシップ（図上訓練など）」などのグループワークを行います

※申込み・問い合わせ※
市ヶ谷ボランティアセンター（所員1名）
03-3264-9516 9:00～17:00 受付（Eメール: kchigaya-vc@hosei.ac.jp）

21. 学んで遊ぼう子ども食堂ボランティア

日 時 2018年6月16日(土)

場 所 高円寺子ども食堂

概 要

6月16日(土)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が「学んで遊ぼう子ども食堂ボランティア」を実施し6名の学生が参加しました。

子ども食堂とは、何らかの家庭事情により、家庭で十分な食事がとれなかったり、孤食になってしまう子ども達に美味しい食事と居場所を提供することを目的に始められたものです。さらに今年の4月から以前も行っていた「無料学習塾」も同日に実施しています。

今回は3回目の訪問ですが、これらの活動のお手伝いをし、子ども達が充実した時間を過ごせるようにサポートをするとともに、児童教育支援に興味のある学生たちにこの経験を通して将来を考えるきっかけを提供することを目的として実施しました。

まずは午前中に「無料学習塾」のお手伝いをしました。幼稚園生から中学まで多くの子どもが参加し、家から持ってきたり、用意された教材を進めました。参加学生は熱心に楽しく勉強に取り組めるように子ども達をサポートしました。問題が解けたときは褒めてあげることで、子ども達もより集中して取り組めたと思います。

その後食堂に移り、午後から来た子ども達を含め、昼食をとりました。食事を終えた子ども達に絵本を読み聞かせたり、折り紙を一緒に作ったりしました。

他にも受付や皿洗い、片付けのお手伝いもしました。今回参加した学生は全員が初めてでしたが、各自積極的にボランティア活動をし、子どもの様々な表情をみる事ができて、良い経験になりました。

今後は新たな企画を考えながら、継続して子ども食堂を盛り上げていきます。

学生参加者数 6名

市ヶ谷ボランティアセンター VSP企画
**学んで遊ぼう
こども食堂
ボランティア**

「こども食堂」とは、
何らかの家庭事情により、
家庭で十分な食事がとれな
かった子どもに、無料
もしくは低額な食事や居
場所を提供する活動。

こども食堂に来ているこどもたちと
勉強を教えた後、いっしょに遊び、
食事を食べた後には、お皿洗いや、
食器の片づけをするボランティア。

6月16日(土)
9:45 市ヶ谷ボランティアセンター集合
10:00 高円寺こども食堂へ
10:30~12:00 こどもたちの勉強をサポート
14:00~ 高円寺こども食堂で食事をいただく
14:30~ こどもたちの食後の食器の片づけなど
15:00 終了予定
定員 20名程度

※ 高円寺こども食堂：カトリック高円寺教会 聖堂地下1階「マイエホール」

申込み・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター 外港ビル1階 学生センター係
TEL: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



食事の前に集まってきた子ども達に勉強を教える



70人以上の食器を洗って片づける

22. 会話の見える化アプリ体験！

～音声認識＆多言語翻訳で会話をリアルタイム表示～(UDトーク)

日 時

2018年6月21日(木)

場 所

外濠校舎5階526会議室

概 要

6月21日(木)にボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が、「東京2020 応援プログラム」として〈会話の見える化アプリ体験！～音声認識＆多言語翻訳で会話をリアルタイム表示～〉を実施し、18名の学生が参加しました。今回は「UDトーク」というスマートフォン向けアプリを使用して活動を行いました。このアプリは、話した言葉を音声認識によって即座に文字化する機能や、多言語に翻訳できる機能があるため、障がい者や外国人との会話の幅を広げることができます。

このプログラムでは、前半に「UDトーク」を開発した青木秀仁氏に、開発に至った経緯や、アプリの機能や使い方、そして障がいをもつ方と接する上で大切なことなどについて詳しく講義をしていただきました。後半は、「UDトーク」を使ったワークショップを行い、参加者全員にUDトークを使っていただきました。健常者、視覚障がい者、聴覚障がい者の役をロールプレイし、グループ内で猫と犬どちらが好きか？などの簡単な二択問題についてUDトークを用いて話し合うという内容です。例えば健常者が聴覚障がい者に言いたいことを伝える場合は、スマホのマイクに向かって話し、UDトークの音声認識機能を用いてスマホに表示された文章を見せます。また、今回のワークショップでは、聴覚障がい者の役は聞こえない話せないという前提条件があるので、聴覚障がい者が視覚障がい者に言いたいことを伝える場合は、スマホに文章を打ち込み、UDトークの音声読み上げ機能を用いて文章をスマホのスピーカーから流します。簡単な二択問題とは言え、障がいをもった方とコミュニケーションを取ることの難しさと、普段とは異なる立場での会話を体験する貴重な時間になったと思います。講義やワークショップを通して、私たちの何気ない会話の伝わりづらさや、障がいをもつ方と会話をする際の工夫点など、多くのことを感じ取り考えていただく良いきっかけとなったのではないかと思います。今後も言葉を「伝える」という意識をもっていただけるような活動を行っていきます。

ボランティアセンター学生スタッフ 文学部日本文学科1年 齋藤 真悠

〈参加学生の感想〉

日本語教師になる夢のためにこの企画に参加しましたが、言語の壁よりも、目の前の人とどのようにコミュニケーションをとっていくかというもっと前段階のことを問いただされました。機会に頼るところ、自分の力に頼るところをもう一度見直して、磨きをかけていきます。

文学部日本文学科3年

学生参加者数

18名



UDトークの開発者に説明を聞く



視覚障がい、聴覚障がいの方の立場になって会話をする

23. 都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア

日 時	2018年 6月25日(月) 事前講義編 7月 1日(日) ボランティア活動編
場 所	外濠校舎5階526会議室 事前講義編 中央区銀座 紙パルプ会館 ボランティア活動編

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が6月25日(月)「都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア～事前講義編」を実施し、21名の参加、7月1日(日)には、「ボランティア活動編」を行い、猛暑の中14名の学生が参加しました。

都心にある市ヶ谷キャンパスに通学する学生の多くは日常生活において、自然を意識する機会が少ないことから、都市と自然の共生についての理解が乏しいのが現状です。都市と自然の共生について理解し、地域共生を考えていくことは、私達学生にも重要であると考え「都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア」を企画しました。

この企画は昨年にも行われましたが、今回は前回の反省をふまえ、実際のボランティア活動前に、銀座ミツバチプロジェクト代表の田中淳夫氏と人間環境学部 高田雅之教授を講師としてお招きし、事前講義を行いました。

都市と自然環境との共生を目指し、銀座の屋上で養蜂を行っている、銀座ミツバチプロジェクトの田中氏からは、ミツバチの生態や銀座の屋上で行われている養蜂、プロジェクトを通じた自然との共生や、銀座ミツバチに関わる様々な人の結びつきの大切さを学ぶことができました。人間環境学部高田教授による講義では、ミツバチを取り巻く世界的な問題や都市の自然について詳しく講義していただき、自然との共生についての理解を深めることができました。また、講義では「ボランティアをするということ」についても改めて考えることができました。

また、7月1日(日)ファームエイド銀座の運営ボランティア活動には30℃を超える暑さの中、14名の学生が参加しました。ミツバチ見学会では、ビルの屋上で実際に蜜蜂が飛び交う中、話を聞くことによって、6月25日に行われた講義の内容を実感できた学生も多かったと思います。マルシェ(物販販売)では、日本全国の出店者の方々と共にその地域の特産品を銀座のお客様にアピールできました。当日は法政大学の他に立正大学や千葉商科大学の学生ボランティアが40名ほど参加し、協力して活動ができ、親交を深めることもできました。

人間環境学部3年 中村 美月
デザイン工学部1年 久保 百合恵

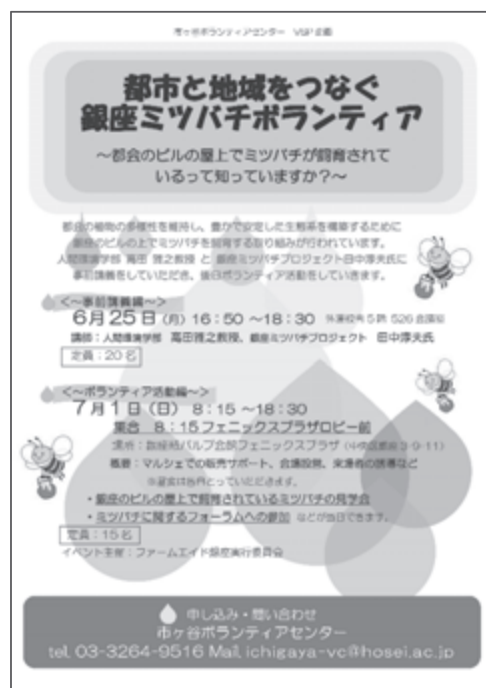
＜参加学生の感想＞

銀座の屋上での養蜂がメインの活動だと思っていましたが、養蜂やその他の活動を通して得たコミュニティを活かして幅広く活動している事がわかりました。また、実際に販売のお手伝いをする事で生産者の方の想いやビジネスの現場を直接目にする事もできました。私がお世話になった佐藤さんや他の出店者の方々は話を聞かせて頂いたり、商品をお裾分けしてくださったりと皆さんとても朗らかで温かかったです。人と人の繋がりが都市と地域が繋がりであるのだと実感しました。

人間環境学部3年 吉田 美穂

私は事前講義とファームエイドでのボランティア活動の両方に参加しました。事前講義では今まで知らなかったミツバチや都市環境のことを多く知ることができたので良かったです。ファームエイドでは特産品の販売を行いました。当日はとても暑かったのですが、子どもからお年寄りまでたくさんの笑顔に出会うことができ、貴重な経験になりました。今回のボランティアを通して、身近な環境を考えると、自分の学部や普段何を勉強しているかなんて関係ないと感じました。また機会があれば参加したいと思います。

文学部日本文学科1年 齋藤 真



学生参加者数

事前講義編 21名

ボランティア活動編 14名



人間環境学部高田教授と銀座ミツバチプロジェクトの田中氏の講演



銀座で採れたハチミツをティスティング



暑い中で他大学学生と協力し地域の物産展を販売するボランティア



ファームエイド銀座でハチミツ入りの商品の販売ボランティア

24. 避難所体験～東日本大震災から学んだこと

日 時	2018年7月1日（日）
場 所	外濠校舎5階526会議室
概 要	

千代田区キャンパスコンソ協力プログラム「避難所体験～東日本大震災から学んだこと」をボランティアセンター学生スタッフ（チーム・オレンジ）が、7月1日（日）に市ヶ谷キャンパスで実施し、33名の学生が参加しました。

首都直下地震が高確率で発生するとされていて、いつ起きてもおかしくない状態です。チーム・オレンジでは東北ボランティアツアーや東北スタディツアーなどの被災地に赴く企画を毎年継続的に実施する中で、防災の重要性について身をもって感じ、自ら学んできました。今回はチーム・オレンジが学んだ知識を千代田区キャンパスコンソ所属大学の学生と共有し、防災について改めて考える企画を実施しました。

千代田区キャンパスコンソ協力プログラムということもあり、たくさんの共立女子大や二松学舎大の学生も参加し、近隣の学生たちが協力して防災について学びました。

この企画では、防災クイズ、非常食試食、防災クイズカルタ、避難所運営ゲームなどを行いました。非常食試食では、学生がセレクトした缶入りパンや水をいれるだけで作れるピラフなどを実際に試食することで備蓄を促す目的で行いました。防災クイズカルタは、毎日新聞にも掲載されたチーム・オレンジが作成したオリジナルのカルタです。避難所運営ゲームでは、避難所の運営側の立場になり、様々な被災者をどこに配置するかなどのことを班で話し合い、運営の難しさを感じてもらいました。最後には各班でどのように配置したのかを共有しました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>
 防災かるた <https://www.facebook.com/HoseiUniversity/posts/1506787342784251>

学生参加者数 33名

防災企画 市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
 千代田区市ヶ谷1-3-1 市ヶ谷キャンパス5階526会議室

避難所体験

～東日本大震災から学んだこと～

「なぜという時あなたならどうしますか？」
 ～非常食試食を通して
 避難所運営につなげよう～

避難所運営
 を想定は？

避難所には様々な避難者が訪れます。
 どのように対応したらよいかわからない
 時間を有効に活用し
 シミュレーションゲームです。

7月1日(日)

【スケジュール】
 11:00～ アイスブレイク
 11:20～ 防災クイズ・カルタ
 12:30～ 非常食試食
 13:30～ 避難所運営ゲーム
 15:40～16:30 振り返り・まとめ

時間：11:00～16:30
 場所：外濠校舎5階526～526
 定員：50名
 参加費：無料
 ＊先着順：定員に達し次第締め切ります。

申し込み・問い合わせ
 市ヶ谷ボランティアセンター
 tel. 03-3264-9516 Mail. ichigaya-vc@hosei.ac.jp



様々な避難者が来た際に、避難者をどこに配置するか図上でシミュレーションする



チーム・オレンジが自作した防災クイズカルタを共立女子大生、二松学舎大生と体験

25. SMBC日興証券×法政大学 地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう

日 時 2018年7月4日（水）
場 所 千代田区ふじみわんぱくひろば
概 要

ボランティアセンターでは、7月4日（水）に、SMBC日興証券とともに、地域のこどもたちにパラスポーツを体験してもらうイベント「地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！」を児童館「富士見わんぱくひろば（東京都千代田区、以下わんぱくひろば）」にて開催し、94名の大学近隣に住む親子が参加しました。

ボランティアセンターでは、ボランティアセンターに所属する学生スタッフ（VSP）が中心となり、市ヶ谷キャンパス近隣の児童館、わんぱくひろばでこどもたちを対象とした企画を定期的に行っています。今回、学生スタッフ（VSP）が児童館へニーズを調査し、2020年を前に、パラリンピックで開催されるスポーツを知ってもらうためのイベントを企画しました。



種目は、現在こどもたちの間で流行しているバスケットボールと2020年の東京パラリンピックで正式種目となるバドミントンの2種類とし、パラアスリートが所属するSMBC日興証券に学生スタッフが企画を持ち込み、実現に向け協議するとともに、実際に競技を体験したいということもこどもたちの声に応えるため、競技用車いすメーカーなどに掛け合って競技用車いす21台を無償貸与いただく運びとなりました。さらに大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松學舎大学、法政大学が2018年4月1日に設立した「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）」を構成する他大学の学生も企画に加わりました。

当日は、SMBC日興証券に所属する千脇貢選手（車いすバスケットボール）とSMBCグリーンサービスに所属する村山浩選手（車いすバドミントン）にお越しいただきました。

パラリンピックについてこどもたちに学生たちがスライドを用いて教えた後、学生たちから競技用車いすの乗り方を教えました。その後、競技用車いすに乗った状態で、選手とフリースロー対決や学生たちが投げた風船を打ち返しパラスポーツに親しみました。また、選手にシャトルを投げ打ち返してもらったり、実際のドリブルやシュートを披露してもらったりする中で、こどもたちはパラアスリートの凄さを実感したようでした。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>

<企画学生のコメント>

今回の体験会を通してこどもたちからは「パラリンピックに興味があった」、「東京2020が楽しみになった」などの感想がありました。多くの方の協力があり、大成功の形で終える事が出来て良かったです。これからも東京2020を広める活動をしていきたいです。

学生参加者数 14名（プログラム全参加者数108名）



競技用車いすメーカーに企画の趣旨を説明し、
無償貸与を交渉



パラリンピックとは何かこどもたちに説明する学生



こどもたちに競技用の車いすで曲がる際のコツを教えている様子



競技用車いすにすわり学生たちがなげた風船を打ち返す

26. 東北・熊本物産展

日 時 2018年7月5日（木）、6日（金）

場 所 一口坂校舎

概 要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、7月5日（木）・6（金）に一口坂校舎 1 階情報発信スペースで「くまモン×えこびょんコラボグッズ」今年も作りました！東北・熊本物産展」を開催しました。

東日本大震災の復興支援に取り組んでいるチーム・オレンジは、東北・熊本物産展を実施しました。この企画は、学生ができるボランティアとして震災の風化を防ぐために、4年前から行われてきました。2016年4月の熊本地震を受け、東北の商品のみならず熊本の商品もそろえて、岩手県の有名な銘菓「かもめの玉子」や熊本城の空に映える満月をイメージしたミルク館まんじゅうの「新月下の熊本城」など学生が選んだ東京ではなかなか買えない商品を販売しました。

また昨年度の物産展でも販売し好評だった本学の公式キャラクター「えこびょん」と熊本県のPRキャラクター「くまモン」とのコラボグッズを今年もボランティアセンター学生スタッフVSPに作製を依頼し、販売しました。



7月4日には、ポアソナードタワーのフォレストガーデンで物産展をPRするため、プレ販売を行いました。多くの学生がその場で商品を手に取って買い、興味を持ってくれました。また、物産展当日は、笹の飾りを作るワークショップと、チーム・オレンジが開発し、毎日新聞等に掲載された「防災クイズカルタ」の展示をし、えこびょんと協力しながら一口坂校舎の前ではっぴを着て、積極的な呼び込みを行いました。

324名の方に来場していただき、売上額は、228,790円に達し、利益の11,710円はすべて、熊本、岩手、宮城、福島の実援金口座に寄付いたしました。

東京でできる被災地支援や、震災の風化防止に関する取り組みを、市ヶ谷ボランティアセンターは今後も続けていきます。

【参考ホームページ】販売商品 http://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/zaigaku/180621_01.html

防災かるた <https://www.facebook.com/%20HoseiUniversity/posts/%201506787342784251>

学生参加者数 25名（全体来場者数324名）



フォレストガーデンでのプレ販売の様子



学生たちがセレクトした商品を販売しました

27. 見えないけど見えている？ゴールボール体験教室

日 時 2018年7月5日（木）

場 所 富士見坂校舎体育館

概 要

2018年7月5日に「東京2020応援プログラム」見えないけど見えている？ゴールボール体験教室を市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、9名の学生が参加しました。

ゴールボールとは、戦争で目に障害を負った軍人のリハビリを目的として考えられたプログラムをスポーツにアレンジしたものです。選手全員が目隠しをし、3対3で行う球技です。パラリンピックの正式種目として2020年の東京パラリンピックでも実施されます。

今回の企画では、実際に体験する前に、世界選手権にも参加している日本代表主将の信澤用秀氏と、国際審判員で東京都ゴールボール連絡協議会の小野和人氏に講演していただきました。ゴールボールのルールについての説明だけでなく、ゴールボールを取り巻く環境や視覚障がいを持つ方の私生活に関することまで貴重なお話を伺うことができました。

ゴールボールの体験では、3人ずつのチームに分かれてゲームを行いました。

視覚が使えないことの難しさや、ボールの軌道を読む面白さを知りました。ゴールボールの奥深さを感じることができたと思います。また、信澤用秀氏のプレーを間近で見ることができ、参加者からは驚嘆の声が上がっていました。

参加者は東京パラリンピック2020への意識が向上したとともに、視覚障がいを持つ方への理解を深めることができたと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP） 経営学部経営学科3年 野村 英吉

学生参加者数 9名

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフVSP企画

見えないけど見えている？ ゴールボール体験教室

東京2020パラリンピック応援プログラム

7月5日(木) 16:50~18:30 (5限)

富士見坂校舎体育館

講師: 日本代表主将 信澤用秀 小野和人 小野和人氏
*JFA Goalball Asia 3対3, 日本選手権大会優勝
東京都ゴールボール連絡協議会・国際審判員 小野和人氏
参加定員: 本学学生30名

世界選手権に
参加した
アスリートが
教えてくれる！

【プログラム】
ゴールボールについて説明
(ゴールボールの歴史・ルール)
ゴールボールの体験
ゴールボールのルール・試合の進め方、声かけ
などについて説明

ゴールボールとは戦争で目に障害を負った軍人のリハビリを目的として考えられたプログラムをスポーツにアレンジしたもので、選手は全員目隠しをし、3対3で行う球技。東京2020パラリンピック正式種目。

あなたもやってませんか？

申し込み・問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



ゴーグルをした状態で相手コートにボールを投げ込む



集合写真

28. 防災ゲーム Day～そなエリア東京

日 時 2018年7月7日(土)
場 所 そなエリア東京(江東区有明)

概 要

7月7日(土)にボランティアセンター学生スタッフ(チーム・オレンジ)が一般社団法人防災教育普及協会主催イベント「防災ゲーム Day2018in そなエリア東京」で、開発した防災クイズカルタの体験会と展示を行いました。

このイベントは、東京都教育委員会、江東区の後援を得て、防災教材やプログラムの普及啓発を目的とし、毎年実施されています。

チーム・オレンジの体験会には、31名の来場者にお越しいただき約40分間、講師を務めました。

防災クイズカルタは、読み上げる札が防災に関するクイズになっており、「地震が起きた時、家のどこへ行けばいいか？」などの質問に対する答えとなる絵札を選ぶルールになっています。また、質問に対する絵札は正解の絵札だけでなく、間違いの絵札もあることから、参加者は議論しながらカルタの正解を導きだし、そのプロセスを楽しんでいるようでした。

また、体験会終了後、展示エリアにて、「展示・体験コーナー」を設け多くの来場者に学生が開発したカルタに触れていただきました。ボランティアセンターでは、今後も学生と連携して防災啓発を行っていきます。

【参考ホームページ】

防災かるた <https://www.facebook.com/HoseiUniversity/posts/1506787342784251>

学生参加者数 8名



カルタを手にする参加者に説明する



参加メンバーの集合写真

29. 手話でお話ししよう「手話とは？」

@ふじみわんぱくひろば

日 時

2018年8月1日(水) 事前説明会

8月2日(木) 実施日

場 所

外濠校舎5階526教室 事前説明会
千代田区ふじみわんぱくひろば 実施場所

概 要

8月2日(木)に千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム、市ヶ谷ボランティアセンター主催、手話サークルわたがし企画「こどもたちと手話で遊ぼう」を実施しました。千代田区の学童施設ふじみわんぱくひろばで実施し、20名を超える子ども達が参加してくれました。

また、千代田区キャンパスコンソーシアム協力大学にも協力を呼びかけたところ、6名の共立女子大の学生が協力してくれました(法政大学関係からは25名の学生が参加)。

この企画は、子ども達に「手話とは何か」というところに興味を持ってもらい、また障がいを持っている方について考えるきっかけになればと思い企画しました。活動では、子ども達が楽しく手話に興味を持てるように主に劇、ゲーム、歌の3つのワークショップに分けて実施しました。

劇では子ども達に、手話について、耳が聞こえないということについてなどに、何らかの興味や関心を持ってもらうために、

子ども達の呼びかけに応じて劇が進行していく「参加型」で行いました。ゲームでは子ども達の前で手話を披露し、その意味を選択肢の中から選んでもらいました。歌では「手のひらを太陽に」をみんなで手話をしながら歌いました。また、実際に耳が不自由な方に、日常生活での苦勞などを話していただきました。

3つのワークショップを通して、子ども達は座っているだけでなく、声を出したり体を動かしたりして、積極的に参加してくれていました。

今回は、時間通りに終わらず、ボランティアに参加した一般学生への対応が少し疎かになってしまうなど反省点が多々ありましたが、企画を通じ子ども達がとても盛り上がり、楽しそうにしてくれていたため、子ども達には楽しみながら「手話とは何か」、また、「耳が聞こえないとはどのようなことなのか」を考える良い機会になったのではないかと思います。

また、わんぱくひろばからもご好評をいただくことができたので、今回のボランティア活動の反省を活かし、今後ともこのような企画を行っていきたいと思います。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>

〈企画学生の感想〉

- 今回の企画を通して、子ども達が、耳の聞こえない人や手話についての理解を深めてもらえたなら嬉しいです。また、企画を立ち上げてから本番当日まで、たくさんの人にご協力いただきました。本当にありがとうございました。
- このボランティアの企画をしたキッカケが自分自身の子どもの頃の経験から、という事もあったので、今回参加してくれた子ども達が、自分のようにこのボランティア活動をキッカケに手話に対して興味を持ち、また、障がいを持っている方や高齢の方などに、自主的にアクションを起こして手伝うことができるようになれば嬉しいと思っています。
- 今回の企画を子ども達と行ったことにより、自分も手話に対する理解がより深まったと感じています。この活動を通して少



しでも手話の魅力を広めていくことができたらいいなと思います。自分の反省点は、前に出て説明をするときに子ども達の立場になって工夫できなかったことです。他者に説明するときは、まず他者の立場に立つ、という当たり前のことの重要性に改めて気づかされました。この反省点を次に活かしていきたいと思っています。

学生参加者数

事前説明会 31名 実施日 31名



最初は簡単な挨拶から



ゲームで正解した子どもにシールを付ける



手話歌の説明



手話歌の練習で立ち上がる子ども

30. 東北被災地支援ボランティアツアー

日 時

2018年 8月2日(水)、8月3日(木) 下見

8月10日(金) 事前研修会

8月20日(月)～24日(金) 34、35次隊

8月23日(木)～27日(月) 36、37次隊 ※2分隊で出発

9月13日(木) 報告会

場 所

外濠校舎5階526会議室 事前研修会
岩手県遠野市、釜石市周辺 活動場所

概 要

8月20日(火)～8月27日(月)、ボランティアセンターでは、岩手県遠野市を拠点にし、陸前高田市、大槌町、釜石市で通算34～37次となる「東北被災地ボランティアツアー」を実施し、総勢36名の学生が参加しました。

このプログラムは、ボランティア活動を通してメディアでは伝えきれない被災地の現状や、少子高齢化などの地方自治体が抱える問題を学生たちに体感してもらい、今後の復興支援の在り方や、地方自治体の活性化やについて考えるきっかけを提供すること目的に実施しています。

現地では、認定NPO法人遠野山里暮らしネットワークのコーディネートの下、公営住宅での岩手弁かるた大会やポッチャ体験会、薪割り、避難道の整備、幼稚園やネギ畑の草むしりなどの様々なボランティア活動を実施するとともに、奇跡の一本松などの震災遺構の見学会を実施しました。



また、本プログラムはボランティアセンター学生スタッフであるチーム・オレンジが中心となり、参加者のためにボランティアの内容や注意事項について説明する事前研修会を実施し、帰着後にはこのプログラムで得られた成果を各々が発表する報告会を実施しました。また、彼らは、法政大学の被災地支援の取り組みをまとめた「チーオレンジ新聞」を作成し、ボランティアの先に配布したり、現地NPO法人とミーティングを重ね交流会やボランティアの内容を検討したりするなどして、大学の被災地支援の取り組みの活性化に大きく貢献してくれました。今後もボランティアセンターでは学生と協働し被災地支援を実施していきます。

[企画学生の感想]

2011年3月11日当日とその後のことは今でも鮮明に覚えています。私は当時、卒業式を1週間前に控えた小学6年生でした。子どもながらに、何か大きな事が起きているのはわかりましたし、テレビで見た津波の様子は底知れない恐怖を私に与えました。更に、帰ってきた父の様子が衝撃的でした。福島県会津若松市出身の父が、テレビの震災と津波の映像を見て泣いていたのです。それから私には、東北のために何かしなければという一種の使命感のようなものが生まれ、機会があれば東北支援の活動をしたいと考えました。しかし、中学生・高校生の6年間は機会に恵まれず、法政大への指定校推薦が決まった時、やっとそのチャンスを得ました。大学資料の中に、チーム・オレンジ取り組みが載っており、絶対に入って活動し、現地に行ってボランティア活動をしようと決めました。

このボランティアを通して学べたのは、被災地には、日本で起こっている問題が詰まっているということです。災害により更に進んだ少子高齢化、止まらない人口流出、産業の衰退とそれに伴う低賃金での生活環境など、これからの社会を見据え、考えていく上での実地勉強になりえます。また、交流会で震災や津波について学ぶと共に、初対面の参加者と話をし、協力し合うことで、コミュニケーション能力を高めることもできました。

今後もこのボランティアを続けていく上で、大切なことは主に2つあると考えます。1つは、復興の現状を学生に実際に見てもらうことで、メディアでは伝えられない事を知ってもらい、震災や復興のイメージを変えることです。2つ目は、学生は無

力なようで、しかし持っている影響力は大きいということです。震災から7年経ち、東北ボランティアをする団体は減りつつあります。その現状において、「心の復興」や「コミュニティの形成」という現地の課題に対して、大学生は大きく貢献できるのです。

震災を知ってほしい・一緒にお話しをしたいという現地のニーズと、現地の現状を知りたい・現地の人とお話しをしたいという学生のニーズをつなげることにこれからも取り組んで行きたいです。

学生参加者数

事前研修会 29名
34、35次隊 19名 36、37次隊 17名（合計36名）
事後報告会 22名



仮設住宅で岩田弁かるた大会



避難道を整備するため竹を運ぶ学生



被災当時のお話を語り部さんから聞く学生



公営住宅でのボッチャ体験会

31. 富士見わんぱくひろばでおこなう 子供・音楽ボランティア

日 時

2018年8月21日(火)、24日(金)、27日(月) 事前研修
8月28日(火) 実施日

場 所

BT マルチメディアスタジオ 事前研修
千代田区ふじみわんぱくひろば 実施場所

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が、8月28日(火)に近隣の児童館である富士見わんぱくひろば(以下わんぱくひろば)で千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム「富士見わんぱくひろばで行う子供・音楽ボランティア」を実施し、大学生27名(企画スタッフ4名含む)と子ども79名が参加しました。

ボランティアセンターでは、ボランティアセンターに所属する学生スタッフ(VSP)が中心となり、わんぱくひろばで子どもたちを対象とした企画を定期的に開催しています。

今回のボランティアは楽器演奏や合唱を通じ、子どもとふれあうボランティアです。「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム(千代田区キャンパスコンソーシアム)」を構成する他大学の学生(共立女子大10名)も企画に加わりました。

当企画は昨年度も実施しましたが、今年度は2部構成にし、参加学生が活躍できる場面を楽器演奏時にも増やすなどパワーアップさせました。演奏する曲については、わんぱくひろばの職員さんに、子ども達に人気の曲を事前に伺い、子ども達が楽しんでもらえるようなプログラム構成にする工夫もしました。

参加学生の協力を得て様々な楽器のアンサンブル曲を取り入れ、演奏前に各々がユーフォニアム、フルート、ホルン、トランペットなどの楽器を子ども達にわかりやすく説明しました。普段、身近に見ることが少ない楽器の数々に子ども達は興味津々でした。そして、合唱曲では、学生たちの演奏に合わせて子ども達が好きな曲を、参加者全員で元気に声を合わせて歌いました。午後の部では、ピアノを分解して、子ども達にピアノの構造を知ってもらうピアノ解体ショーも合わせて実施しました。ピアノ解体ショーの合間には、「ピアノが出来たのは何年前か?」「ピアノの弦の数はいくつか?」などのクイズがあり、なかなか難しい問題でしたが、正解者にシールをプレゼントするなどの工夫をすることで、真剣に考えてくれました。

【参考ホームページ】

千代田区内隣接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>

【企画学生からの感想】

やはり子ども達への対応の難しさを感じましたが、昨年度より多くの子ども達に参加してもらえて成功だったと思います。初めての企画担当でしたが、準備にとっても時間がかかったのでやりがいを感じられました。これからも、より良いボランティアへの貢献の仕方を考え続けていきたいです。

デザイン工学部1年 長谷川 陸

今回の企画スタッフは、昨年度の企画スタッフと新たに入ってくれたスタッフが、丁度半分ずつを占めており、昨年の様子を元に新たな意見も取り入れ、良いバランスで進めていけました。子ども達に喜んでもらうということを目標に掲げ、ニーズに応えるための様々な調整が大変でしたが、成功に終わった後に得られた充実感は強く、次の企画への原動力となりました。引き続き、VSPの活動に励んでいきたいと思っています。

経営学部経営学科2年 菅 結菜



今回は、小さい子ども達がどこまで興味を示してくれるのか気になるころでしたが、リズムに身体をゆらし最後まで熱心に聴きいってくれました。またリハーサル時間もあまりなく、演奏者も初対面同士が多かったのですが和気あいあいと本番まですみ、子ども達を感動させるに至りました。また子ども好きの学生に子ども達がまわりついて離れなかったのも、ほほえましかったです。終了後、参加学生達が口々に、またやりたい、と言っていました。とりあえず学校、学年、学部を超えた交流も成功したといえます。そして学生達が微力ながらも地域に貢献できたのではと思いました。

科目等履修生 森泉 博夫

歌や学生による楽器演奏で、子ども達がいろいろな楽器に興味をもってくれたり音楽を楽しんでくれたので良かったです。また、法政大生だけでなく共立女子大の方とも交流ができる機会になったことを嬉しく思います。

経営学部市場経営学科 1 年 後藤 優音

学生参加者数 27名



ピアノ解体ショー



アンパンマン2重奏



トトロ5重奏



音楽クイズ

32. 集めて、拾って法政クリーン fes

日 時 2018年8月29日(水)

場 所 外濠周辺、市ヶ谷キャンパス内

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP が企画した「集めて、拾って法政クリーン fes」を夏休み期間中8月29日(水)に実施し、12名の学生が参加しました。

この企画は、現在定期的に行われているキャンパス周辺清掃と、エコキャップ回収の参加人数を増やすために、より多くの人々に魅力を感じていただくために行われました。キャンパス周辺清掃にゴミの量と質で競い合うチームスポーツの要素を取り入れ、いつも以上に集中して清掃を行うことができました。

また、エコキャップ回収では普段回ることのない富士見坂校舎も巡ることで多くの量を回収することができました。時間のある夏休みならではの企画になったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)ではこれからもキャンパス周辺清掃や、エコキャップ回収などの活動をさらにパワーアップさせて継続させていきます。皆さまの参加をお待ちしております。

学生スタッフ3年 中野 実織



積極的に取り組んでくださり、活動も参加者の全員で程よく平等に分担できたので、今回はむしろ少人数で良かったのではないかと思います。強いていうならば、普段の延長という雰囲気が強かったため、更に参加者が増えた場合、「クリーン fes」への魅力が少し欠けてしまうのかな、とも感じました。この点に関しては、現在 VSP の課題の1つとして、試行錯誤の最中ということで、全員で徐々に改善していければ良いと思います。

学生スタッフ2年 岡部 琴美

今回のキャンパス周辺清掃では、毎月おこなっていた清掃にはなかったスポゴミ形式を取り入れ、楽しみながら活動してもらう事を目標にしていました。他のチームと競い合うことで、より多くのゴミを集められたのではないかと思います。

エコキャップ回収には久しぶりに参加したのですが、テスト期間と夏休みを挟んだこともあり、非常に多くのキャップを集められました。不純物を取り除くことを徹底していた点も良かったと思います。

学生スタッフ2年 石井 拓也

学生参加者数 12名



キャンパス周辺清掃ボランティア集合写真



エコキャップ回収の成果

33. 千代田区みらいの防災リーダー養成講座ボランティア

日 時 2018年9月2日（日）

場 所 千代田区役所1階

概 要

9月2日（日）にボランティアセンター学生スタッフ（チーム・オレンジ）が、千代田区主催のイベント「みらいの防災リーダー養成講座」に参加し、防災クイズカルタを紹介しました。

このイベントは、千代田区が、ダンボールベッドの組み立て、地震体験車による地震体験、訓練用消火器による消火訓練などの体験をとおり、将来に役立つ防災に関する知識を身につけることを目的とし、今年初めて実施されました。

本学のチーム・オレンジの学生と千代田区キャンパスコンソーシアム協定大学の共立女子大学の学生が協力して、防災クイズカルタを行いました。この養成講座には、小学生1年～4年の生徒16名のほか、保護者の方も14名参加がありました。

防災クイズカルタは、身近な問題から、保護者の方でも難しい問題もありますが、言葉ではなく、絵が描かれていることから、低学年の生徒も十分に、楽しみながら、防災教育に触れていただき、短い時間でしたが、閉会時には、「カルタが楽しかった。」など声をいただきました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>

<参加学生の感想>

千代田区主催みらいの防災リーダー養成講座で、私達が作成した防災クイズカルタを千代田区民の子どもたちと保護者に遊んでもらいました。参加者は答えの分からない問題を必死になって考え、私達の答えと解説に驚き、楽しんでいただけました。今回のゲームが防災について考えるきっかけになればと思います。また、臨機応変に対応してくださった千代田区職員にとっても感謝しています。

学生参加者数 4名



養成講座閉会式の様子



学生が読み手となりカルタに挑戦

34. ヒューリック・ダイハツ JAPAN パラバドミントン 国際大会 2018 観戦ツアー

日 時

2018 年 9 月 30 日（日）

場 所

町田市総合体育館

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で 9 月 30 日に～東京 2020 応援プログラム～「JAPAN パラバドミントン国際大会 2018 観戦ツアー」を実施し、15 名の学生が参加しました。

今回の観戦ツアーは、東京都より、9 月 26 日（水）～30 日（日）に町田市にて開催されるパラバドミントン国際大会の情報発信や観戦促進の協力要請があり実施する運びとなりました。

東京都では東京 2020 パラリンピックの成功に向け、今年度からパラリンピックの国際大会の開催を共催により支援し、多くの方にハイレベルな競技を観戦していただける事に取り組んでいます。その取り組みの一環として、世界バドミントン連盟の公認大使として日本で 2 度目となる「JAPAN パラバドミントン国際大会 2018」が開催されました。

当日は台風が接近していたこともあり、数名の申込者が参加できなくなりましたが、市ヶ谷ボランティアセンターが実施したパラスポーツイベントに協力していただいた、村山浩選手も大会に参加したこともあり、参加した学生たちは熱心に応援をし、パラバドミントンの理解を深めたようです。

学生参加者数

15 名



パラバドミントンを観戦する様子



大会の様子

35. 千代田区男女共同参画センター 第6回 MIW 祭り ボッチャ体験教室

日 時 2018 年 10 月 6 日（土）

場 所 千代田区役所 1 階

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP は、障がいをもつ子どもの現在（いま）と未来を考える会の協力を得て、千代田区の公式のイベントである「千代田区男女共同参画センター 第6回 MIW 祭り」に参加しました。

8 月に行った「神田すずらん祭り」同様、千代田区の地域貢献ボランティアの1つです。

当日は 12:00 からの 2 時間ほどの時間でしたが、千代田区役所区民ホールで「ボッチャ体験教室」を行い、ボランティアセンター学生スタッフが 6 名参加しました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、昨年度より東京オリンピック・パラリンピックの気運醸成のために、ボッチャ体験会なども学内外で行っています。大学のノボリとボッチャコート在白テープで貼り付けたブルーシートを持参したボランティアセンター学生スタッフが、時間に合わせ集合しました。法被を着た学生がボッチャを楽しそうに行っていると、自然と声がかかります。

ボッチャは、目標球（ジャックボール）に向かってボールを投げ、どれだけ近づけることができるかを競う競技で、重度の脳性麻痺者のためにヨーロッパで考案されたパラリンピック正式種目です。

当日は近隣の方や区の職員の方、また通りすがりの外国人の方もボッチャを体験してもらい、東京 2020 パラリンピック正式競技ボッチャへの気運が高まったかと思います。

〔企画学生の感想〕

「あっボッチャ知ってる！」これまで何度かボッチャの体験会を行って来ましたが、こういった言葉を沢山いただいたのは初めてでした。今回体験会に参加された方の中には 5 月の神保町にて行ったボッチャ体験会にも来て下さった方も多数おり、着々とボッチャの認知度、そしてリピーター数も増えて来ています。今後も 2020 年に向けて、体験会を多数行っていきます！その時は一緒にプレイして日本中をボッチャで盛り上げていきましょう!!

法学部 2 年 藤山 雄多

学生参加者数 6 名



区の職員の方に教える



ボッチャを通しホール内が地域の方との交流の場に

36. まちのわ防災 Festa(飯田橋グラン・ブルーム)

日 時 2018年10月6日(土)

場 所 飯田橋グランブルーム

概 要

10月6日(土)に「まちのわ 防災 Festa」が飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと開催されました。

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントでした。

市ヶ谷ボランティアセンターは、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、理工学部知能ロボット研究室(理工学部伊藤研究室)、IVUSA、ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ、と連携し本イベントを盛り上げ、総計 854 名の方々に参加していただきました。



1. 理工学部知能ロボット研究室(理工学部伊藤研究室)

○最新レスキューロボット実演

「瓦礫の中で活躍しているロボットを間近で操作できるのは珍しい」という声を聞くことができました。中高年・シニア層の方に多く参加いただき、大人から子供までロボットを動かして楽しんでいる姿がありました。

2. キャリアデザイン学部荒川ゼミ

○防災グッズ作りワークショップ

自分だけのアート防災グッズ「スズ付き光るキーホルダー作り」、「スズ付きロゼッタリボン作り」のワークショップ行いました。子供たちに大好評でした。

3. チーム・オレンジ

○防災カルタ・緊急に役立つ身近なものの活用法

家庭にある身近なものを使って作れる防災グッズはファミリー層に好評でした。子供でも簡単に遊べる防災カルタは「わかりやすいイラストで防災知識が身につく楽しかった」と親御さんからの感想もいただきました。

4. IVUSA

○バルーンアート・新聞紙を使ったワークショップ

新聞紙を使って災害時に使える防災グッズのワークショップ。正面入口にピエロがバルーン配布を実施したことにより、ほとんどの子供たちはバルーンを持って館内や屋外を回っていました。とても好評でした。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することができ、地域貢献ボランティアとしての1つになりました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

学生参加者数

47名



チームオレンジ：子供でも遊べる防災カルタ



チームオレンジ：身近なもので作れる防災グッズ



知能ロボット研究室：レスキューロボットの操作方法を
地域の子どもに教える



知能ロボット研究室：参加メンバー



荒川ゼミ：参加メンバー



IVUSA：ハルーンアート

37. 手話講座

日 時

10月11日、18日、25日、11月8日、15日、
22日、29日、12月6日(木曜日、全8回)

場 所

58年館5階856教室

概 要

手話講座入門編では、NHK 手話ニュースキャスター 中野佐世子先生を講師に招き、自己紹介をはじめ、基本的なあいさつから、聴覚障がい者について、また障がい者に関しての法規にも触れながら理解を深めていきました。最終回には補助犬の紹介DVDを見て、障がい者が行動する上で大切なパートナーである補助犬の存在を、多くの人々に広める必要があることも学びました。

初めて手話に触れる学生が多い中、毎回ペアを組んで練習した会話の時間には、学年や学部を越えて交流を持ってました。手話講座は、全8回という事もあり、今回の入門編からもっとハイレベルな内容に関して学んでいきたいという意欲的な参加者や、より広義な福祉についてより知識を深めていきたいなどの感想もあり、充実したボランティア講座になりました。

市ヶ谷ボランティアセンター主催 ボランティアプログラム

手話講座

入門編

假文字の練習から始め、
あいさつや自己紹介など、
簡単な会話の練習までを学びます。
ぜひこの機会に手話にふれてみませんか？

・手話にまったく慣れていない初心者でも大丈夫です。
・全8回ありますので、できる限り毎回参加していただきたいと思います。

10月11日(木)～全8回
10月11日、18日、25日、11月8日、15日、22日、29日、
12月6日 毎週 木曜日に開講します。

時 間 : 16:50～18:30(5限)
場 所 : 55・58年館 5階 856教室 参加費:無料 (5限・7限・8限のみ)
募集対象 : 本学学生、教職員・定員40名(定員に達し次第締め切り)
講 師 : NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子 氏
申込み方法 : 市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書記入、またはメールで

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

<参加学生の感想>

歌にも力を入れた授業内容だったので、楽しみながら学習できました。手話は、人と人とがコミュニケーションをとる上で基礎的かつ大切なことが沢山つまっている言語だと思います。手話以外に障がい者が利用している情報伝達手段として、点字や読唇術も学習してみたいと思いました。

文学部 1年

この講座で学んだことを発展させ、実際に耳が聞こえない、聞こえづらい人と関わるために実践する機会を自分で探していきたいです。そして実際に町中で困っている人がいたら自ら躊躇せずに、手を差し伸べたいと感じています。講座を開いていただき、ありがとうございました。

人間環境学部 1年

学生参加者数

23名



講師の先生に基礎から手話を教わる



ペアを組んで練習をする

38. ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く ～音声ガイド作成プロセスを学び豊かな表現力を身につけよう！

日 時 2018年 10月16日(火)(映画入門編)、
11月13日(火)(映画制作編)

場 所 外濠校舎5階526教室

概 要

ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)と課外教養プロジェクト学生スタッフ(KYOPRO)が10月16日(火)と11月13日(火)に「ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く～音声ガイドの制作体験をしよう!」を実施し、10月16日に15名、11月13日には8名の学生が参加しました。

ユニバーサルシアターとは、視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方や小さな子供連れなど、様々な理由で映画に行くことをためらってしまった人でも楽しむことができる映画館です。

今回は講義を通してユニバーサルシアターについて、その映画の音声ガイドについて学び、また実際に音声ガイドを作ることを通して、視覚障がい者についての理解を深めるとともに、他者を思いやり、そして行動することの大切さを学びました。

本企画では、バリアフリー映画鑑賞推進団体シティ・ライツ代表平塚千穂子氏と視覚障がいを持つモニターさんの河原崎晴美氏をお招きし、ユニバーサルシアターや映画の音声ガイドについての講義や音声ガイドの作成を行いました。

1日目の10月16日には、実際に音声のみで有名な映画のワンシーンを聴き、その後音声ガイド付きで同じシーンをもう1度聴くことで、視覚障がい者への理解を深め、音声ガイドのありがたみを感じてもらい、その上でユニバーサルシアターとはどういうものなのか、シネマ・チュプキ・タバタ設立への歩み、音声ガイドを制作するうえで気を付けることを講義で学びました。2日目の11月13日には1日目のおさらいをした後に、短編映画のワンシーンを使って実際に音声ガイドを作成し、河原崎氏に評価してもらいました。実際に目の見えない方に評価してもらうことで、視覚障がい者が映画を見るうえでどのような情報を求めているのかを具体的に理解することができました。

学生参加者数 23名

【参加者からの感想】

シネマ・チュプキ・タバタ設立のきっかけ、苦労、そして成果を講義で聞き、思いやりはとにかく行動に移すことで形になるのだということを学びました。また、音声ガイドを作るうえで気を付けることを学んだ後、実際に音声ガイドを制作し評価してもらったことで、必要だと思ったことが不要だったり、逆に必要ないと思ったことが必要だったりすることが多く、情報の取捨選択の難しさを実感しました。今回の企画に参加してみて、分かっていたつもりで分かっていたことを実感することが多く、大変貴重な経験になりました。

文学部心理学科1年 西尾 果織



昨年度とは異なり、参加学生に体験してもらう実践の場を設けたのでより深い学びが得られたと思います。実際にやってみないとわからないことは多く、新たな視点を持つことが出来ました。その反面、企画時間をじっくりとった内容だったため参加する気軽さが失われたのが反省かと思います。どの企画もですが、様々な人に参加していただいて、いろんなことを持ち帰ってほしい思いが強いので、自分自身も成長しながら今後もよりよい立案ができるよう努力していきたいと思います。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1 年 長谷川 陸

通常の企画よりはるかに長時間の企画であったがあっという間に時間が過ぎた。決して多いとはいえ参加者人数ではあったが、グループ作業での参加者同士の連帯感、一体感はかなりのものであった。参加者たちが帰りぎわに講演者やゲスト、スタッフに御礼を述べて退出してくれた事は嬉しい限りであった。これも参加者の満足度の証であると思う。

文学部地理学科 森泉 博夫



講義を真剣に聞く学生達



講義を真剣に聞く学生達

39. ある日突然難病になったら？ ～難病や共生社会への理解を深めよう～

日 時

2018年10月19日(金)

場 所

外濠校舎5階526教室

概 要

希少難病とは、希少、原因不明かつ経過が慢性で負担の大きい疾患です。今回は講義やワークショップを通して、難病が誰にでも起こりうる身近な疾患として理解を深めると共に、周りの人の目に見えない内部障がい者でも豊かに暮らせる共生社会の実現を目指し、私達にできることを学びました。本企画では、特定非営利活動法人希少難病ネットつながるの理事長である香取久之氏と、病気と生きるプロジェクト主催者である麻田モモカ氏をお招きし、難病の理解を深める講義やワークショップを開催していただきました。

前半では、難病や、難病を取り巻く制度や社会問題に関する講義を行いました。参加者には難病は身近に感じられないかもしれませんが、実は誰にでも起こり得るという認識を深めてもらいました。また、講義の後半では、持病に関わらず誰もがやる気や能力で認められる社会の構築の重要性をお話いただき、大変考えさせられる講義となりました。

後半では、難病当事者の理解を深めるワークショップを行いました。難病患者は自身の身体に負荷がかけられている状態で生活をしています。そこで、チーム対抗戦で班員がクイズに3問正解するまで、班員の1人が「腹筋」という負荷をかけられる状態を作り、疑似体験をしてもらいました。このワークショップは大変盛り上がり、当事者意識を持つことで、難病患者への理解を深めることができました。

〔企画学生の感想〕

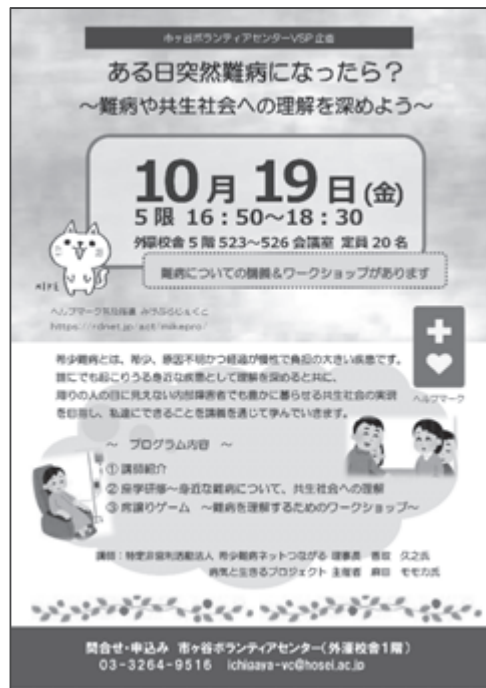
難病患者の人数や難病の制度など、まだまだ知らないことが多く、より身近な疾患として理解を深めることができました。前半の講義では、香取氏の持病に関わらずやる気や能力で認められる社会であるべきである、という言葉にとっても共感させられました。また、ヘルプマークは駅のホームでポスターを見かけることはありますが、もっと認知され、普及していったほしいと思いました。後半ではワークショップを行いました。私達が作成したクイズに楽しく参加してもらえたのでよかったです。また、負荷をかけられる体験をしてもらったことにより、学生自身がより難病当事者への理解を深められたように感じました。これからは電車などで困っている人、体調が良くない人を見つけたら席を譲るなど身近なところから行動し、誰もが生きやすい社会になってほしいと思います。本当にありがとうございました。

学生参加者数

18名



難病についての講義を熱心に聞く



ワークショップの様子

経営学部市場経営学科3年 山根 江莉奈

40. 富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり」

日 時 2018年10月27日(土)

場 所 千代田区富士見わんぱくひろば

概 要

千代田区富士見わんぱくひろば(以下わんぱくひろば)で開催された「わんぱくこどもまつり2018」に協力しました。

わんぱくひろばの「わんぱくこどもまつり」は、毎年行われ、約700名の参加者がある地域児童館最大のイベントです。法政大学では、アカデミー合唱団、児童文化研究会、パフォーマンスサークルすだまのメンバーと、一般応募した学生を含む計38名の学生が参加しました。

アカデミー合唱団の学生は、定番の「となりのトトロ」「さんぽ」「翼をください」、手遊び歌などを歌いました。鍛えられた美声は、親御さんや子供たちから大好評でした。

児童文化研究会の学生は「ぐりとぐら」の巨大絵本の読み聞かせなどをし、小さい子供も親しめるような目線を意識して活動していました。

パフォーマンスサークルすだまは、カードマジックや、ボールジャクリング、ヨーヨー、ディアボロ、シガーボックス、フローワンドなどのパフォーマンスを披露し、めずらしいパフォーマンスに立ち止まって見ていく子供も多く見受けられました。一般応募した学生たちは、ハロウィン仮装パレードの交通案内、受付、子供の工作の補助、ゲームコーナー、フリーマーケットの準備などのボランティア活動をしました。

＜参加者の感想＞

今回初めてボランティアに参加しましたが、とても楽しく活動させていただきました。小さな子供とのコミュニケーションは普段あまりする経験がなく、緊張していましたが、ハロウィンに全力な職員の方々や、楽しそうな子供たちを見て緊張がほぐれ、たくさんの子供達と触れ合うことができました。特に、私が担当したゲームコーナーでは楽しそうに遊んでくれるのを見て、充実感を覚えました。とても貴重な体験でした。ありがとうございました。

学生参加者数

38名

法学部3年 大内 麻由佳



児童文化研究会大型絵本読み聞かせ



こどもたちと工作で遊ぶ

41. 富士山トレイル整備ボランティアツアー

日 時 2018年10月28日(日)

場 所 富士山麓

概 要

市ヶ谷ボランティアセンターは、10月28日(日)、「NPO 法人富士山クラブ」のご指導のもと、学生 38 名で『富士山トレイル整備ボランティアツアー』を実施しました。

参加者は、活動場所である「本栖湖いこいの森キャンプ場」まではバスで移動し、車内で参加者全員によるミニゲームやクイズ大会を、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)を中心に行い、参加者同士の交流を深めました。

キャンプ場に到着後、始めに「NPO 法人富士山クラブ」の方々に作業内容の説明をしていただき、その後各自ヘルメットと軍手をつけ、熊手や鋏を持ち活動場所まで移動しました。事前に、途中登る場所があるという説明を受けていましたが、予想以上に急勾配で、昼食の弁当を担いでいた学生は特に大変そうでした。昼食は活動のスタート地点でいただきました。

昼食後、目的であるトレイル整備作業を行いました。それまで登って来た道を整備しながら降りるという形で、一列に並んで作業をしました。「NPO 法人富士山クラブ」の方々に熊手や鋏の使い方を教わりながら、参加者全員で協力して作業を進めることができました。

登って来た時は過酷に見えた道も、降りる時には見違えるほど綺麗な道になったと感じられました。

下山後、5〜6 人程度のグループに分かれて今回のトレイル整備活動の感想や反省点などについて意見を出し合い、最後には参加者全員の前で自分達の考えを発表しました。活動前に役割分担を決めておく、トレイル整備は継続していくことが重要など数多くの貴重な意見を共有することができ、充実した内容になりました。

文学部史学科 1 年 太田 宙

〈参加学生の感想〉

当日は天気も良く、自然の中でのびのびと活動ができました。活動場所まで道具を担いで急勾配な山道を登っているときは、体力的に厳しく、どうなることかと思いましたが、登りきった後に食べた昼食はとても美味しいものでした。トレイル整備は、参加者同士でコミュニケーションをとりながら協力して進めることができました。また、自分たちが作業した道を下ることができたので、自分が行なった作業が実際に歩きやすい道になる効果を体感できたことも、良かったです。今後山に登るときは、このような道を整備して下さる人々のおかげで、私たちは安全に山を登れているということを忘れないようにしたいです。今回の作業を無駄にしないためにも、また機会があれば参加したいと思います。

文学部 1 年

学生参加者数 38名



熊手や鋏を手し、道を切り開いていく



作業を終え、富士山クラブの皆さんと

富士山トレイル整備ボランティアツアー

10月28日(日)

参加費 2,000円 (お昼食代別) ※お昼食は、お弁当・お弁当代、お弁当代

参加人数 30名 本学学生生

活動場所 富士山麓 申込締切 10月22日(月)

申込方法 市ヶ谷ボランティアセンター 下記のいずれかに申込書記入

お申込・お問い合わせ先

市ヶ谷ボランティアセンター 03-3264-9516

市ヶ谷ボランティアセンター 042-783-2073

市ヶ谷ボランティアセンター 042-387-6041

42. ～犬との「触れ合い」を通して 保護犬の現状を知ろう～

日 時

2018年10月30日(火)

場 所

外濠校舎5階526会議室

概 要

本企画では、動物の譲渡会ボランティアや啓蒙活動をされている一般社団法人はーとinはーとZRの皆さまにご協力いただき、講義や保護犬とのふれあいを実施しました。代表の池上奈穂氏に動物保護の現状を話していただき、飼っていたペットが捨てられて日々殺処分されていること、それをなくするためにはペットの流通経路を変える必要があるということについてなども考えさせられる講義となりました。

講義の後には、7匹の保護犬たちとのふれあいを通じて、保護されている動物がペットショップにいる動物とどう違うのかを肌で感じてもらいました。保護犬になった理由は多頭飼育崩壊や病気などさまざま、ただ講義で話を聞くだけでなく、実際に触れてみることで、より保護犬に関して理解が深まったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ 法学部3年 友利 亮太

～犬との「触れ合い」を通して
保護犬の現状を知ろう～

10月30日(火) 17:00～18:10

市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階526会議室 定員:30名(参加費無料)

講師:一般社団法人はーとinはーとZR 池上 奈穂氏

【講義内容】 ●保護犬の現状 ●ペットショップの犬と保護犬の違い ●捨て犬の現状
●11月4日(日)・12月2日(日) 実際のボランティアの体験
●保護犬と触れ合い ●ワークショップ

【ボランティア】 11月4日(日)・12月2日(日) 譲渡会の運営補助ボランティア
※申込受付 10月30日に限る。定員に達すると10月30日に締め切ります。(後者5名優先)
※犬と触れ合いは事前予約、お忘れ物や服装など事前にお知らせください。

申し込み・問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

＜参加学生の感想＞

講義では人気のペットショップで売られている犬には親犬がいて、その親犬は毎年のように子供を産む事に使われ、体がボロボロになることを知った。ペットショップとブリーダーの間では犬の値段が付けられ、そこで外された犬達はブリーダーの元で世話されるが、ブリーダーの管理が行き届いていない結果、様々な病気にかかったり、精神的に大きな疾患を抱えたりすること、また保健所で殺処分される犬は窒息という形で亡くなるという現状、これを想像すると本当に苦しくなり、またこの現状がまだ認知されていないと思うと残念な気持ちになった。

私たちにできることはペットショップで犬を飼わないこと、ニーズを少なくすることでブリーダーは親犬に子供をたくさん産ませる必要がなくなり、殺処分する犬を少なくできる、また保護犬を積極的に受け入れて殺処分される犬を救うこと、身近な人から社会に広めていく事がこれから先必要になるのだと思う。

キャリアデザイン学部 キャリアデザイン学科 2年 桑名 彩佳

学生参加者数

46名



多くの参加学生が訪れた



保護犬に実際にふれあい合いながら質問

43. 地域防災について私たちのできることを考える

日 時

2018年11月10日(土)

場 所

外濠校舎5階526会議室

概 要

チームオレンジは、「地域防災」に貢献したいという想いから、実践的な AED 講習と地域防災に貢献する消防団の活動等を知ってもらうために、「地域防災について私たちのできることを考える」企画を実施しました。当日は、グループに分かれて麹町消防団の方々に AED の使い方の指導を受け、要救助者に対する対応などを学びました。「大きな声で人を呼ぶこと、消防署に連絡をすること、救急車が来るまでにやること」など、実際におこなってみることは貴重な体験となりました。

また、後半は、被災地で活動していた浪江町消防団の方たちが、原発事故により、救助できなかった命を残してしまった心情を伝えるために制作された映画「無念」を観ました。上映後は、消防団活動の紹介や意見交換を行い、地域防災について理解を深めることができましたと思います。



<参加学生の感想>

消防の方に来ていただき、AED 講習と、東日本大震災についてのアニメ「無念」を鑑賞しました。AED については、いざという時に使い方を忘れていては意味がありませんので定期的に学べる機会を今後作っていくべきだなと感じ、とても勉強になりました。そして、「無念」を鑑賞した際はアニメとはいえその情景に呼吸を忘れるくらいの緊張を覚えました。私たちの周りでもいつ起きるか分からない災害。もっと関心を持って備えていかなければならないなと感じました。

経営学部経営戦略学科 三田寺 有希

学生参加者数

9名



消防団の方から話を聞く



AED の使い方を教わる

44. ボッチャ東京カップ2019予選 ～大学選手権東日本大会～

日 時

2018年11月17日（土）

場 所

武蔵野総合体育館（武蔵野市）

概 要

「ボッチャ東京カップ2019」は、パラリンピックスポーツであるボッチャを広く一般のスポーツとして普及し、競技力の向上を目指すことを目的として、一般社団法人日本ボッチャ協会が主催しています。

2018年11月17日、武蔵野体育館で行われたボッチャ大会において、小学生的部の運営ボランティア、および大学選手権への参加を行いました。



小学生大会のボランティアは、主に会場の設営や、参加者や保護者の誘導などを行いました。近隣の小学校ではボッチャ協会の方々が何度も指導を行われていたそうで、試合は予想以上に盛り上がりを見せていました。仲間とコミュニケーションをとりながら、真剣に勝負している子どもたちの姿が印象的でした。こうした競技体験を通じて、東京2020やいわゆるパラスポーツへの関心が子どもたちにも高まっているのではないかと感じました。

大学選手権は、今回2回目の参加でしたが、前回から3校増えた7大学の参加で開催されました。参加チームの中には、ボッチャ専門の部であったり車いすの選手もいたり、ボッチャを普及させようという各大学の取り組みが見られました。試合に勝つことはできませんでしたが、実際に競技をしないと分からない発見もあり、貴重な経験になりました。このような活動の広がりが、障がい者への理解やボッチャを含めたユニバーサルな競技の普及に繋がっていくと良いと思いました。

人間環境学部 2年 石井 拓也

学生参加者数

4名



ボッチャ選手権に参加したメンバー



ボッチャ大学選の試合の様子

45. 街の緑を守ろう！ ～都市部における自然保護ボランティア～

日 時

2018年11月17日（土）

場 所

中目黒公園

概 要

現在、環境問題には世界的に大きな関心が寄せられていますが、その多くが地球温暖化や森林伐採、大気汚染といった、地球規模での問題に限られています。

このような問題は早急に対応すべきではありませんが、同時に身近な自然にも関心を抱くべきだと思います。私の住む町では、かつては数多くあった私邸の庭や空き地といった、生き物が住める環境が少なくなり、それに伴い昆虫やカエル、野鳥といった様々な種類の生き物が、街から姿を消したように感じました。

身近な自然を守れなくて、地球規模の環境問題は解決できないと思い、本プログラムを企画しました。

当日は、目黒区立中目黒公園のボランティア団体である有機クラブの会員の方々に、ご協力をお願いしました。

参加者は、汚れてもよい服装と軍手で、公園内でボランティアを行いました。男性の参加者は、公園内で栽培している作物に使う堆肥作りをしました。

この堆肥は中目黒公園や目黒区内で得た、落ち葉を発酵させて作っています。落ち葉を掘り返し米ぬかを撒くなどして、発酵させる作業を行いました。

一方女性の参加者は、同じく公園で栽培されている作物に使う、肥料作りを担当しました。この肥料は魚粉等身近にある有機性食品を混ぜて作った物で、農薬をほぼ使用しておらず、環境に悪影響を及ぼさないものです。参加者は魚粉をすり合わせたり空気を入れるなど会員の方たちの指示を受け作業しました。これらの作業終了後、有機クラブの会員の方々に公園内を案内していただき、開園から15年間、野菜や芝生、虫や鳥などが、多数のボランティア団体によって守られていることを学びました。

この活動は参加者からにも好評で、一年を通じて活動ができることもあり、来年以降も同様の企画を、実施していきたいと考えています。

法学部国際政治学科2年 正田 一成

学生参加者数

9名



有機性食品等を混ぜて肥料を作る



落ち葉を掘り返し発酵させる

46. 富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア

日 時

2018年11月21日(水)

場 所

千代田区富士見わんぱくひろば

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)は、11月21日(水)に近隣の児童館、富士見わんぱくひろば(以下わんぱくひろば)で千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム「富士見わんぱくひろばで行う子供・音楽ボランティア」を実施し、大学生15名(企画スタッフ3名含む)と子ども19名が参加しました。

わんぱくひろばでの今回のボランティアは楽器演奏や合唱を通じ、子供とふれあうボランティアです。「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム(千代田区キャンパスコンソーシアム)」を構成する他大学の学生(共立女子大5名)も企画に加わりました。当企画は今年の8月も実施し、そのときは学生の楽器演奏を子供達に聴いてもらうという演奏会形式でしたが、今回はゲームなどを用いて子供たち参加型の音楽会にしました。使用する曲に関しては、事前にわんぱくひろばの職員さんに人気の曲を伺い、子どもたちが楽しんでもらえるようなプログラム構成にする工夫もしました。

実施内容としては、学生の演奏によるイントロクイズで会を始め、次にフルーツバスケットのルールに楽器を適用し実際に鈴やタンバリンなどを持ちながら行う楽器バスケット。次に、学生のピアノ演奏のBGMによる椅子取りゲームを行い、最後はサビの部分で振り付けを入れた『世界に一つだけの花』の合唱をしました。学生と子供たちが一緒に歌ったりゲームをすることで、最初から最後まで和気あいあいとした雰囲気包まれた音楽会になりました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html>

【企画学生からの感想】

一般学生との協力が他の企画よりも大事であるため、スタッフは連絡、打ち合わせを頻繁に行って来ましたが、面識のない学生同士のコミュニケーションも重要だと改めて感じました。子供により楽しんでもらえるように考えた結果、夏季実施分より参加した一般学生の満足度もあげることに成功したと思います。2回の活動を行った結果、前回より改善を重ねられたことは確かであるので、少しずつ今後も良くしていけたらそれで十分だと思います。これからも自己満足に終わらないこの意識を忘れずに活動していきたいです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1年 長谷川 陸

子供たちに楽しんでもらいたいという熱意のある参加者が多く集まってくださり、この企画の成功に向けて協力していただけたことに感謝しています。当日は予想外なことがいろいろありましたが、予想以上に会が盛り上がったのも事実です。子供たちには音楽を身近に楽しんでもらうことができたと思います。なにより子供たちの笑顔がたくさん見られて良かったです。私は今回の企画を通じて企画実施までの進め方などを学ぶことができたので、この経験を他の企画にも活かしていきたいです。また、子供たちに楽しんでもらえるような活動を続けたいと思います。

経営学部市場経営学科 1年 後藤 優音



学生参加者数 15名



ボランティア学生の司会で進行



イントロ宛てクイズ（学生のピアノ演奏）



企画スタッフのまとめの挨拶



集合写真

47. 教職員に教える地域防災

日 時

2018年11月22日（木）

場 所

外濠校舎 526 会議室

概 要

今年の秋学期防災訓練では、チーム・オレンジが講師となり、23名の職員は生徒として熱心にプログラムに参加しました。チーム・オレンジは、東北を主とした被災地支援・防災啓発について現場だけでなく、学内での物産展企画や企業とコラボした子供を対象とした防災教育イベントなど様々な企画を実施している、2011年4月に結成された市ヶ谷ボラティアセンター所属の学生団体です。

第一部は、チーム・オレンジ制作の防災クイズカルタをやりながら、楽しく防災の知識を学びました。第二部では、避難所運営ゲームを行いました。避難所（小学校）に、避難してきた人をどのように受け入れるか、外部からの様々な要望にどのように応えるか等をチームごとに話し合いました。

参加した職員からは「カルタが楽しかった」、「チーム・オレンジの学生ががんばっている様子がわかった」などの感想があり、非常に有意義な防災訓練になりました。

学生参加者数

14名



チーム・オレンジのみなさん



チーム・オレンジの皆さんが各テーブルについて優しく指導



問題を聞いてカルタを選びます



避難してきた人を各部屋に配置します（避難所運営ゲーム）

48. 学食企画～お昼ごはんで被災地へ～

日 時

2018年11月26日(月)～30日(金)

場 所

BT 地下1階 フォレストガーデン
富士見坂校舎地下1階 食堂
東館 食堂(小金井)
6号館食堂(社会学部食堂・多摩)

概 要

東日本大震災から7年が経ち、また各地で地震被害が頻発していることから、身近な学食と連携し、東北・北海道にちなんだ料理を提供し、日常生活の中で震災についてもう一度考えるきっかけを作りたいという思いで12名の学生がプログラムの企画に携わりました。

法政大学生協同組合に協力いただき「学食企画～お昼ごはんで被災地へ～」として、フォレストガーデン、富士見坂校舎食堂(市ヶ谷)、東館食堂(小金井)、6号館食堂(多摩)の3キャンパスにて実施し、東北・北海道復興支援メニューを提供しました。

生協とミーティングや試食会を実施して「福島ソースカツ丼(福島県)」、「札幌味噌バターラーメン(北海道)」各432円の2種類のメニューを考案しました。どちらも好評で、これらのメニューが期間中3キャンパス合わせて2,292食を食べていただけたため、企画目的の震災について考えてもらうきっかけ、並びに風化防止になったと感じております。

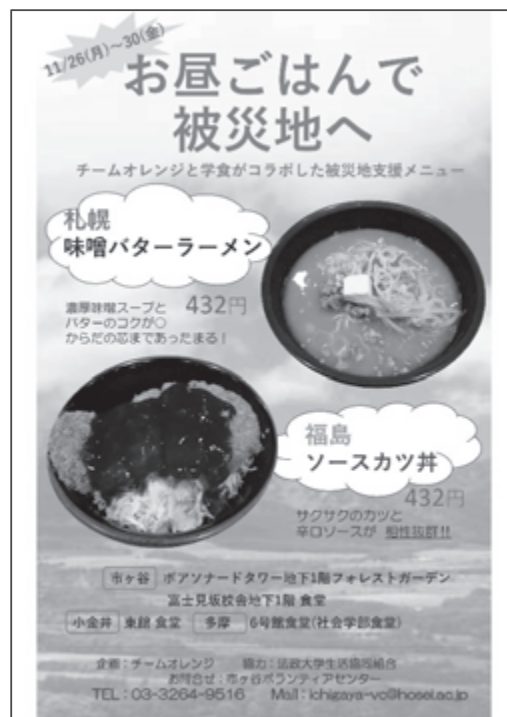
文学部地理学科2年 清水 遥貴

<参加学生の感想>

- ・生協の方から今回の企画は好評だと聞き大成功だと思う。ただ、この企画が震災を風化させないという目的をもっと浸透させる必要があると思う。
文学部2年
- ・企画で提供したメニューを食べている方を多く見かけ、好評であったように感じました。震災を風化させないことがこれからの課題になると思うので、今後もこの企画を続けていければと思います。
法学部2年

学生参加者数

12名



福島ソースカツ丼



札幌味噌バターラーメン



試食会を開催しメニューの検討を行う



学生が食べている様子



ポスターで宣伝



チラシを配るチームオレンジメンバー

49. 千代田区内近隣大学の高等教育連携強化 コンソーシアム ポスターセッション

日 時 2018年12月1日(土)

場 所 二松学舎大学 中州記念講堂

概 要

2018年7月4日に実施した「法政大学(VSP)×SMBC 日興証券 地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう!」と2018年8月28日と11月22日に実施した「法政大学(VSP)×千代田区富士見わんぱくひろば 富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア」の2つのポスター発表をしました。

ポスター制作にあたり、ボランティア参加者から提出してもらった原稿を1枚のポスターにまとめるのに苦労しました。原稿は、企画段階の打ち合わせから準備、ボランティア当日の様子や、ボランティアへの思いなどが、長文だったためでした。思い切って文章を選別して、ポスター1枚で表現できるよう編集しました。複数の原稿が元であったため、客観的なポスター制作ができ、結果的には、うまくできたと思いました。

<参加学生の感想>

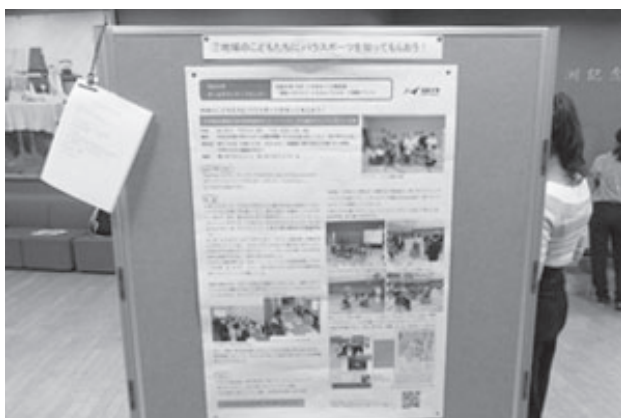
これまで多くの企画で他大とかかわってきたが、こうしたそれぞれの大学、団体が発表して、お互い共有できるのはこれからの自分たちが行う企画にも大きくつながると思います。さらには「発表する」という事で、相手に伝える大切さを発見する事ができました。来年、再来年と他大との関係を続けていきたいです。

法学部2年 藤山 雄多

学生参加者数 6名



学生によるポスターセッションの様子



学生作成のポスター

50. 福島被災地スタディツアー

日 時 2018年12月9日(日)
場 所 福島県いわき市、二葉郡浪江町

概 要

本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が企画し、各種手配、広報、当日の運営を行いました。今回のスタディーツアーは「行って、見て、感じてふくしま」をスローガンに掲げ、福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことを目的としたツアーを企画しました。

当日は、市ヶ谷キャンパスから貸切りバスで福島県いわき市 いわきワンダーファームに向けて出発しました。

ワンダーファームでは、農業最大の問題である風評被害についてや、復興に向けての現在の取り組みなどをお話しいただき、その後ワンダーファームでトマト狩り体験を通して実際に福島の野菜の安全性を確認しました。浪江町では、一般社団法人まちづくりなみえの職員の方にご協力をいただいて、浪江町の震災時の被害状況から、復興計画、現在の復興状況までご講演いただき、震災についての知識を深めました。その後未だ被災した小学校や震災被害者の慰霊碑など震災の爪痕が残る

町内の視察を行いました。

現地での視察、講話、食事を通して震災の記憶を共有し、風化防止、防災意識の向上に結びつけることができました。また、このプロジェクトを通じて「チーム・オレンジ」の学生スタッフは、企画書作成、準備、当日の運営などのプログラムの一連の流れを学ぶことができました。

〔ルート(日帰り)〕

法政大学出発→ワンダーファーム(講話・トマト狩り体験・昼食)→浪江町・講話(町内視察)→法政大学到着

<参加学生の感想>

故郷が災害危険区域になり二度と住むことができないのだという生の声に心が痛んだが、漁場(市場)が来年、町を活気づける力となって再起するという前向きな声も聞け、自分の心も変わっていくのを感じた。震災たくさんの悲しみや苦しみを生んだが、同時に今立ち上がろうとする力も生まれている事を知ることができた。ニュースや授業では知ることのできない、リアルを知ることができて本当によかった。

社会学部3年

帰宅困難区域となり、故郷に帰りたくても帰れない人々がいる現状や、除染した土壌が未だに街の至るところに置かれていて、課題がまだまだ山積みであることを知る事ができました。福島の現在の状況を報じるメディアも年々少なくなってきましたが、実際に自分の目で確かめることで、復興の段階にすら進んでいないということを知り、驚きました。原発の問題もあり、震災は過去の事でなく、未だなお収束していない問題であると感じました。

生命科学学部2年

何度被災地を訪れても「想像はできるけど理解はできない」といつも感じます。ここに住んでいる人々の苦しみや悲しみを100%理解するのは難しい。ですが「理解したい」「向き合いたい」という思いは持ち続けたいと思います。

社会学部4年

学生参加者数 42名

市ヶ谷ボランティアセンター チーム・オレンジ企画 福島県いわき市

福島被災地スタディーツアー

法政大学ボランティアセンター主催/チームオレンジ企画

【募集内容】

来て、見て、感じて 福島

実施日：2018年12月9日(日)

参加費：2,000円

募集対象：法学部生40名

申込締切：11月30日(金)

※定員に達し次第締め切りです。

申込方法：市ヶ谷キャンパスボランティアセンターにて申込書記入
申込料・学費を納入し、メールで申込確認を依頼する。

【スケジュール】

07:30 法政大学市ヶ谷キャンパス集合(大講義室集合)

07:45 法政大学校舎集合

11:30 いわきワンダーファーム集合(トマト狩り体験、語り部、昼食)

11:45~12:45 語り部とトマト狩り体験

12:00~14:00 いわきワンダーファームでランチ

15:30~17:30 浪江町視察(浪江町市街地・津波被災地)

17:45 浪江町集合

22:00 法政大学集合・解散

【お問い合わせ・お問い合わせ先】市ヶ谷ボランティアセンター(法政大学市ヶ谷キャンパス)
Tel: 03-3264-9516 E-mail: ichigaya-vc@seio.ac.jp Twitter: teamorange



ワンダーファームでのトマト狩り体験



ワンダーファームでの語り部の話を真剣に聞く



浪江町移動の際もバスの中で町内の状況を説明いただいた



まちづくりなみえの職員による震災当時の説明



震災遺構となった小学校。震災当日まで生徒が通学



浪江町にて集合写真
勉強になった一日

51. 災害の現場で役立つ ファシリテーション講座

日 時 2018年12月10日(月)

場 所 外濠校舎5階526教室

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフは12月10日(月)、「災害の現場で役立つファシリテーション講座～“もしも”が起きたときのためにできることを今増やす～」を実施し、18名の学生が参加しました。

[内容]

●オリエンテーション

講師である鈴木まり子氏の自己紹介や、鈴木氏が所属しているNPO法人日本ファシリテーション協会の紹介

●知り合いタイム

●災害ボランティアとは(災害ボランティアとは一体どんなボランティアなのか?、自分の得意分野を生かすとより良いボランティア活動、話し合いの進め方)

●5つの手法と考え方 など

市ヶ谷ボランティアセンター・チームオレンジ企画

災害の現場で役立つ ファシリテーション講座

“もしも”が起きたときのためにできることを今
あなたの可能性をひろげよう!

12月10日(月) 18:45～20:45
外濠校舎5階526会議室 定員20名
講師：鈴木まり子氏 参加費：無料
キャリアデザイン学部兼任講師/NPO法人日本ファシリテーション協会フェロー

ファシリテーションとは?
グループでのミーティングで思いとおりに進められなかった経験はありませんか。

なぜ災害の現場で役立つ?
災害した状況の中で、話し合いをまとめるばかりでなく、お互い、メンタル面で寄り添っています。

【プログラム概要】
・ファシリテーションとは
・災害ボランティアについて
・ワークショップ
・質疑応答でファシリテーション

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

プログラムを通して、ファシリテーション講座を受講した学生がほんの少しの間であっても今までの自分に足りないところを見出し、今後の学生活動に生かしてくれたら企画した意味があったな、と思っています。

人間環境学部 人間環境学科2年 小長井 愛

<参加学生の感想>

私が今回の講座で1番印象に残っていることは「まとめようと考えてはいけない」ということです。リーダーの役割が比較的多い人生を歩んできた私は前に立つと、どうしてもまとめる方向に考え、最終的には妥協していました。そのような考えを改める良いきっかけであったと思います。

文学部1年

今回の講座を通して、グループサイズを変えて話し合いをするやり方を知ってこれからのサークル活動やゼミなどで使っていきたいと思いました。どうしてもシーンとしてしまい、意見を出しにくい雰囲気になったしまうことがあるのでまず二人から話し合いを始めるのもいいかなと思いました。

人間環境学部1年

学生参加者数 18名



52. スターバックス コーヒー ジャパン の 取り組みから見るごみ削減

日 時

2018年12月18日(火)

場 所

外濠校舎5階526教室

概 要

内容概略

- (1) 学生からの企画説明
- (2) 講師の方によるコーヒーテイ스팅の実習とスターバックス コーヒー ジャパン(株)のリサイクルフローの紹介
- (3) 個人でできる廃棄物を減らすためのアクションやアイデアのディスカッションと発表
- (4) 質疑応答

近年話題になったプラスチック製品の海洋廃棄問題をきっかけとして立ち上がった本ワークショップ企画は、最終的にスターバックス コーヒー ジャパン(株)社員の方2名の協力のもと、様々なごみ問題についての講義・啓発ののち、スターバックス コーヒー ジャパン(株)の廃棄物とその処理方法の改善策について講義を行いました。簡単に聞くことができない裏話が盛りだくさんあり、見えないところで様々なごみ問題への努力がなされているのが勉強になりました。

講義の後、参加者をグループ分けして廃棄物を減らすためのアイデアの考案会、そしてプラスチックストローの代替案についてのディスカッションを実施しました。食べられる素材のストローにする、リユース食器など奇抜なアイデアがたくさん出て興味深い内容になりました。

＜参加学生の感想＞

スタバで出たコーヒーかすが、牛の食べ物になって循環している事を今回初めて知り、素晴らしいと思いました。飲食店で出るゴミは一般家庭に比べ量が多いので、適切に処理していく事がより良い環境づくりにつながると思います。店舗でのゴミ削減に関して、紙ナプキンやストローなど資材が用意されているとお客さんも使ってしまうので、最初から置かないこともエコへの近道だと思いました。

文学部1年 宮元 美佳

本ワークショップを通じて、参加者の皆様には様々な企業が環境への取り組みを実施していることを知ってもらい、各家庭においてもごみ問題を意識していただければ嬉しい限りです。

経営学部1年 月岡 悠

学生参加者数

25名



グループディスカッションの様子



各グループからの発表の様子



53. 手話狂言鑑賞教室

日 時

2018年12月20日(木)(鑑賞教室事前講座)
2019年1月26日(土)(手話狂言鑑賞教室)

場 所

外濠校舎5階526教室(鑑賞教室事前講座)
国立能楽堂(手話狂言鑑賞教室)

概 要

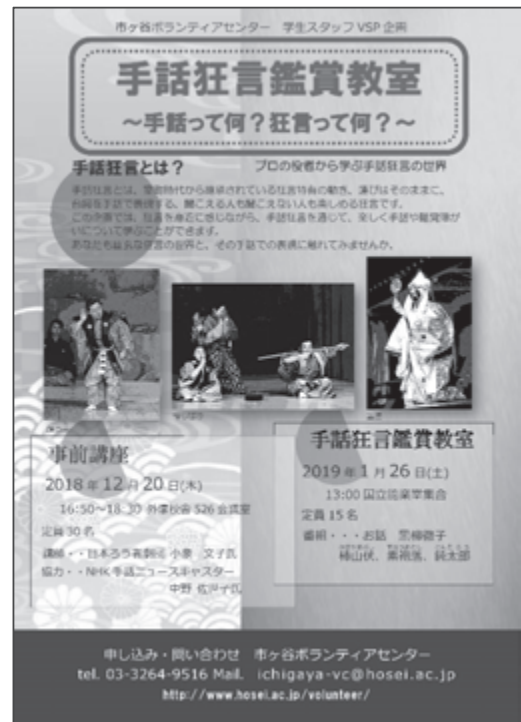
12月20日(木)の事前講座には21名、1月26日(土)の鑑賞教室には16名の学生が参加しました。手話狂言とは、ろう者の俳優の方たちが手話を使って、表情豊かに狂言を演じるもので、聞こえる人も聞こえない人も一緒に楽しめます。

・鑑賞教室事前講座

手話狂言鑑賞をより楽しく、有意義な機会にするためにに行った事前講座では、講師として日本ろう者劇団の小泉文子氏と、手話通訳者の中野佐世子氏、豊田直子氏をお招きしました。内容としては、まず手話講座の受講生である学生が「能」と「狂言」の違いについて、実演を交えて発表しました。それをふまえて、小泉氏より手話狂言についての説明をしていただきました。なぜ手話狂言を始めたのか、どのように稽古をしているのか、台本をどう作っているのか、などのお話を伺うことで、手話講座で学んだことをより具体的にイメージすることができ、楽しく鑑賞するためのポイントをしっかり予習することができました。また、狂言のすり足や構えなど、狂言独特の「型」を体験することができました。この講座を実施したことは、手話講座での学習をより深く掘り下げ、また有意義に手話狂言を鑑賞することにつながったと思います。参加者からは、手話は表情を使って行うものであるということが改めて分かり、アルバイトなどで聞こえない人と会ったら実践したい、狂言と手話は表情を使うという点で共通している、表情を使って何かを表現することは、健常者であってもコミュニケーションをするうえで重要なことだと感じた、などの感想をいただきました。表情に着目し、それをコミュニケーションに活かしたいといった感想が多かったです。

・手話狂言鑑賞教室

1月26日は実際に、手話狂言を鑑賞しました。社会福祉法人トット基金理事長の黒柳徹子さんのお話を聞いた後、「柿山伏」、「素袍落」、「鈍太郎」を鑑賞しました。狂言師によるアテレコの声と、演者の方々の表情がぴったりとマッチし、何度も見所の笑いを誘っていました。手話講座で習った手話もしばしば登場し、また小泉氏から教えていただいたすり足なども実際に見ることができ、漠然としたイメージがより明確なものとなりました。この体験は、手話講座受講生にとって、今後も手話に興味を持ち続けるきっかけになったのではないかと思います。



VSP 企画学生スタッフ 法学部 4 年 成田 大輝

＜参加学生の感想＞

手話サークルに入っていることもあり手話には少し親しみがあったが、手話で狂言までできるとは思っていなくてどんなものなのか楽しみだった。実際見てみたら手話がわからなくても分かりやすく、又展開も簡単にわかるものでとても楽しめました。実際の狂言は見たことないがこれを通して、そちらにも逆に興味が出てきました。 グローバル教養学部 2 年 荻津 こはる

まず印象的だったのが、アフレコと演者の方々の表情がぴったりと合っていて、しっかり笑いを誘っていたことです。耳の聞こえない方が演じ、聞こえる人と聞こえない人が同時に楽しめる機会は、「障がい者」と「健常者」との間の見えない壁をなくしていくきっかけにもなると思います。また聞こえない状態であるような本格的な狂言を発表するには、想像を絶するような練習量と、高い意識が必要だと感じました。 法学部 4 年 成田 大輝

今回の手話狂言鑑賞教室で実際に手話狂言を見て、非常に面白く、感動しました。声を発する人と演者のタイミングがぴったりで本当にすごいなと感じました。

また、12月の事前学習の際に小泉さんから学んだ、腰の落とし方や動きなどの様々なことも実際に見ることができてよかったです。狂言というものの自体、鑑賞するのが初めてでしたが1つ1つの話が短めで内容もわかりやすく楽しむことができました。自分の世界がまた広がったように思います。また機会があれば手話狂言を見に行きたいです！

人間環境学科 1年 中山 結子

学生参加者数

21名（鑑賞教室事前講座）

16名（手話狂言鑑賞教室）



小泉氏（手話狂言師）の表現を中野氏（手話講座講師）に通訳していただく（事前講座）



能の表現について能楽研究会が協力（事前講座）



国立能楽堂前集合写真

54. 合同定例会 (ボランティア活動報告)

日 時 2018年12月22日(土)

場 所 外濠校舎5階S505教室

概 要

開会挨拶として、伊藤ボランティアセンター長から本定例会の趣旨説明がありました。また、2018年度はスーパーボランティアと呼ばれた尾畑さんがマスコミに大きく取り上げられたことにより、ボランティア活動が注目された年となりました。ボランティア活動への気運が高まる中で、法政大学のボランティア団体の活動のさらなる飛躍を期待していると、激励の言葉をいただきました。

次に各団体の2018年度活動報告を発表していただきました。

チーム・オレンジは代表の鬼頭さん、VSPは代表の藤山さんをはじめ参加者全員、メトロ東京飯田橋駅ボランティアは代表の皆川さん、キャンパスエコロジーは代表の尾崎さんが2018年度活動報告を発表しました。

チーム・オレンジは、福島スタディツアーと大学の庶務課主催の防災訓練参加を中心にこれまで行ってきた活動を時系列順に報告しました。

VSPは、キャンパス清掃やペットボトルキャップ回収、千代田区内の祭りでの「ポッチャ」普及活動、こども音楽ボランティア、子供食堂ボランティア、都市部の保全活動、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム等、年間実施される100プログラムのうち、7プログラムの活動報告をしました。

メトロ東京飯田橋駅ボランティアは、サービス介助基礎検定の資格取得をして行っている日々の駅ボランティア活動について活動の様子の写真を交えながら報告しました。

キャンパスエコロジーは、土浦市で活動している「里山班」。千葉県で活動している「棚田班」、千代田区を中心に祭りのゴミ分別活動などを行っている「緑化班」、自主法政祭でゴミステーション等の活動をしている「学祭班」の4つの班があり、各班ごとに活動報告をしました。

その後の活動報告の感想発表については、普段見えにくい他団体の活動の意図や意味を報告会を通して感じる事ができた、他団体の発表の中に自団体でも活かせる視点や考え方があり大変参考になった、などの意見が寄せられ、参加者にとって実りの多い報告会となりました。

＜参加学生の感想＞

お互いの活動が知れるいい場になると思いました。また、横のつながりもできてボラセンでの活動においてさらに幅が出ると感じました。

文学部2年 鬼頭 雅也

それぞれのチーム、プログラム企画から運営まで協力して行っていることや、今まで知らなかった活動についても知ることができ、ボランティアに対しての熱意を感じられました。メトロボランティアは他チームと協力したり単発参加したりするのが難しい活動ですが、ボラセンの活動として他チームの皆さんから学べるところを取り入れ、お手本にさせて頂きたいと思っています。それから、今回伊藤センター長と初めてお話しする機会があり、刺激を受けたと同時にこれからもコツコツと活動を続けていきたいと励みになりました。

人間環境学部1年 皆川 桃子

これまで、VSP はメトロやチームオレンジの方々とは何回か関わりを持たせて頂き、こういった活動を行っているか等のお話を聞いたことありますが、キャンエコとは中々共同で活動する機会がなく、こうした機会でも活動のお話を聞けたのは大変貴重なことです。またこれまで関わりを持っていたメトロ、チームオレンジについても詳しい活動までは存しておらず、今回の合同定例会によって他団体の素晴らしい活動内容を認知できました。

同じボランティアセンター所属の団体で、素晴らしい活動を行っている大事なパートナー団体についてを詳しく知らなかったのは大変恥ずかしく感じました。それぞれの団体、代表さん、メンバーさんの話も面白く、非常に努力しているのが鮮明にわかりました。今回は活動報告だけではなく、悩みごとや今後の課題などを話し合え、これは今後の私達 VSP の活動にも必ず良い影響をもたらすはずです。来年度もこうした合同での定例会や企画を増やしていけたら良いなと感じました。

法学部 2 年 藤山 雄多

VSP やチームオレンジ、メトロの活動をお聞きするのも初めてで法政の中でこんなにたくさんのボランティア活動をしているのかと驚き、代表として知識不足を感じました。キャンエコもボランティアとしては自治体のお祭りのボランティアをしたり NPO のお手伝いをしたりしているので他の団体のボランティア精神は大変参考になりました。キャンエコは他の団体と違いそこまでボランティアセンター様と密接に関わっている訳では無いので空気感が少し違うのかなと言った部分はあったのですがボランティア団体として参加してよかったと思います。

人間環境学部 2 年 尾崎 沙也花

学生参加者数 15 名



チーム・オレンジ鬼頭代表の報告



メトロ東京飯田橋駅ボランティア皆川代表の報告



VSP メンバーの報告



キャンパスエコロジー尾崎代表の報告

55. 55・58年館清掃ボランティア

日 時

2018年12月22日(土)

場 所

55・58年館3階

概 要

大内山校舎の竣工に伴い2019年3月から55・58年館校舎解体工事が始まります。55・58年館は、戦後の法政大学を象徴する校舎であり、長年にわたり多くの学生と教職員の学び舎でした。

VSP学生スタッフは、55・58年館3階の531,532,833,834教室と廊下を掃除するボランティアを企画しました。大教室のため、床を帚で掃き、机を雑巾で拭きました。机拭きの際には競争することで、楽しみながら素早く掃除をすることができました。

廊下掃除では、床を掃いて拭き、窓枠を雑巾で拭きました。窓枠はやはり埃が溜まりやすいようで多くの埃が取れ、掃除のしがいがありました。床拭きの際には、55・58年館の特徴である長い廊下を活かし、雑巾がけリレーを行いました。距離がある分大変さもありましたが楽しめました。55・58年館は、まもなく60年の歴史の幕をとじることになります。

<参加学生の感想>

今までお世話になってきた55・58年館への感謝の気持ちを持ちつつ、楽しみながら掃除を行いました。教室も廊下も目立った汚れは少なかったですが、今回の掃除でより綺麗になったと思います。また、私は55・58年館での授業が多くあり、特にお世話になった思い入れのある校舎であったため、この取り組みに参加できてとても良かったです。専門必修の授業で使用していた教室の掃除をしているときには、自分がいつも使わせてもらっている机を掃除でき、嬉しい気持ちになりました。このような取り組みを今後も実施できたらよいと思います。

文学部1年 佐久間喜望

学生参加者数

7名



長い廊下を雑巾がけ



机を雑巾で拭き掃除



教室の床を帚で掃き掃除

56. 学生ボランティア団体助成事業表彰式

日 時 2019年2月5日（火）

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

概 要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは、継続して行っている東北被災地支援ボランティアと今後のチーム・オレンジの活動において、「学生ボランティア団体助成事業」に採択され、10万円を助成していただくことになりました。

学生ボランティア団体助成事業表彰式と交流会(2/5)に、2名の学生が参加しました。

会場は、「レセプションホール」国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）。参加学生スタッフは、同じ課題を持つ他大の学生同士の情報交換などの機会にもなり、刺激をうけ、今後のボランティア活動に生かしていきたいと思いを新たにしていました。

＜参加学生の感想＞

表彰式に参加することで活動のモチベーションとなり、特に同じ震災復興のボランティアをしている他団体の方と情報交換できた交流会は、自分にとっても所属団体にとっても良い機会だったなと思いました。さらに今後の活動の幅も広がれると感じました。

チーム・オレンジ学生スタッフ 鬼頭 雅也 小長井 愛

学生参加者数 2名



チーム・オレンジ受賞の様子



表彰状を手に

57. フェアウェルDays

日 時 2019年2月23日（土）、24日（日）

場 所 55・58年館

概 要

2019年3月より55・58年館の解体工事が行われるにあたり、55・58年館のフェアウェルイベントが2月23日（土）、2月24日（日）に行われました。このフェアウェルイベントのピアネット企画として行われた「学び舎55・58年館が育んだ法政スピル」に学生スタッフVSPとチーム・オレンジが参加しました。

VSPは「55・58年館でのボランティア活動と55・58最後のボランティア～感謝を込めた大掃除～」を副題に掲げ、12月22日（土）に行った55・58年館の清掃活動の様子のパネル展示を主に、VSPの日々の活動の展示を行いました。また、展示スペースの一角を交流の場とする、55・58年館への思いを綴る寄せ書きスペースを作るなど学生スタッフと来場者の交流も積極的に行いました。

チーム・オレンジは「チーム・オレンジに宿る法政スピル」を副題として、チーム・オレンジに宿っている法政スピルが日々の活動にどのように影響をもたらしているのかを展示しました。また、日々の活動で使っている防災かるたなども展示するなどの工夫を凝らし、来場者に楽しんでいただけるような展示となりました。

今回のフェアウェルイベントのピアネット企画には2日間で合計1,264名の来場者に足を運んでいただくことができました。VSP、チーム・オレンジの両学生スタッフと来場者の方が楽しく交流している場面も数多く見られ、55・58年館の思い出の共有や活動の紹介をすることができ、大成功のうちにイベントを終了することができました。

<参加学生の感想>

フェアウェルDaysのイベントに関わることによって、より法政大学について、また自団体であるチーム・オレンジについて知識を深められました。また同時に、それらについて深く考える良い機会になったと思います。加えて当日学生スタッフとして参加することで、多くのOB・OGの皆様、教職員の方から「法政大学の生きた歴史」を拝聴し、55・58年館だけでなく法政大学の歴史の深さを実感し、愛校心が湧きました。

55・58年館は取り壊されてしまいますが、これからは新しい校舎で先輩方が作ってきた「法政大学の歴史」を私たちがつくりていきたいと思いました。

人間環境学部 2年 小長井 愛

今回の企画に様々な年代の方が来てくださりました。私達の企画に関心を持っていただくと同時に、かつて自分達が過ごしていた法政大学を懐かしんでおられました。来場していただいた方々の話には、私達の知らない法政大学が語られており、私はそこに歴史を感じると共に、法政大学が築き上げた伝統を継承する様、努めていきたいと思いました。

文学部 1年 南 皓大

フェアウェルDays企画に関しては、予想を越える大盛況で今更ながら卒業生の皆さんの愛校心に感動しました。学生だった当時の事を思い思いに熱く語っていただき、私達のボランティア活動に関しても沢山の激励の言葉をいただきました。また私たちスタッフが開催前に会場の教室を大掃除したり、長い廊下を雑巾がけ競争した事は、きっと忘れられない青春の思い出になるでしょう。

科目等履修生 森泉 博夫

学生参加者数 15名



VSP 活動の様子①



VSP 活動の様子②



VSP 準備の様子



チーム・オレンジ活動の様子①



チーム・オレンジ活動の様子②



チーム・オレンジメンバー集合写真

58. ふじみわんぱくひろばで行う 防災アートフェスタ

日 時 2019年2月23日(土)

場 所 富士見わんぱくひろば

概 要

富士見わんぱくひろばの「アートフェスタ」に参加し、以下企画を実施しました。

(1)防災クイズ(13:00~14:30)

防災についての身近な知識を〇×問題にして子どもたちに答えてもらいました。ひらがなベースのクイズを10問作り、そのうちの3問に正解できるとロボットを操縦できる「ロボット操縦券」をもらえるようにしました。



企画学生作成のポスター

(2)防災グッズ作り(15:00~16:30)

新聞紙でできるスリッパ作りを実施。難易度も低めで、完成したスリッパはアートフェスティバルに合わせ絵を描けるようにしていたので、幼児から高学年まで多くの子どもたちに楽しんでもらえました。スリッパを作った子どもたちには「ロボット操縦券」を渡しました。

(3)防災ロボット操縦体験(知能ロボット研究室(理工学部))(13:00~16:30)

小金井キャンパスの理工学部電気電子工学科の知能ロボット研究室(伊藤一之教授)の皆さんに協力してもらい、研究室の方が作った防災ロボットの操縦を子どもたちに体験してもらいました。子どもたちはロボットの操縦に興味津々で、ロボットを操縦したくて(1)や(2)に2回以上来てくれた子どもたちもいました。

※(1)もしくは(2)を体験してくれた子どもたちがロボットを操縦できる仕組みを作っていたためロボットの操縦に子どもたちが集中することなく、スムーズに子どもたちを誘導できました。また、2つの体験をしてくれた子どもたちには景品として非常食用のビスコをプレゼントしました。

経営学部 経営戦略学科 2年 三田寺有希

＜参加学生の感想＞

何度も打ち合わせをしながら当日まで企画を進めてきました。上手く進行ができず、富士見わんぱくひろばのスタッフさんやチーオレのみんな、特にボラセンの職員さんにはご迷惑をたくさんおかけしました。それでも皆さんが優しく指導してくださったおかげで当日企画を成功させることができました。予想以上に子どもたちが楽しんでくれていて、その笑顔を見る度にやってよかったなと感じられました。防災グッズを作成している時はただ工作をするだけでなく、その用途についても子どもたちは興味を示してくれて防災について興味を持ってもらえたと思います。

また、知能ロボット研究室(理工学部)防災ロボットにもたくさんの子もたちが興味を持ってくれました。ロボットを操縦できるだけあって、ロボットを操縦する為に何度かクイズや防災グッズ作りに参加してくれた子もいました。木材の障害物を置いた事や学生の説明により、ロボットが災害現場でも使われていることを子どもたちに知ってもらうことができたと思います。遊びながら防災を学べる貴重な機会になりました。

もしも災害が起きたときどうしたらよいか、それが学べる機会は都内ではまだまだ少ない印象です。近年起こると言われている首都直下型地震、そのほかにもいつ起こるか分からない災害に備えてもらうために多くの方を巻き込んだ企画を今後も行っていきたいです。

経営学部 2年 三田寺 有希

学生参加者数

9名



知能ロボット研究室（理工学部）
災害救援ロボットのデモの様子



防災スリッパのアートペインティング



引き換えカードと防災用ビスコを交換



防災クイズでロボット操縦券をもらう

59. 常葉学園大学(静岡県) 図上訓練

日 時

2019年2月23日(土)、24日(日)

場 所

静岡県常葉学園大学

概 要

静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 今やりたい!災害時の「多様」に気づき、地域の備えに+α静岡県で行われた上記のタイトルの訓練に参加しました。この訓練では今回で14回を迎え、毎年テーマを設定してワークショップや事例報告、交流会などを行っています。私は県内プレイヤー、県外プレイヤー、ビジターとある中でビジターとして参加しました。「多様」というテーマをもとに行われたワークショップを見学では、6~7人程度の小グループでファシリテーターと共に互いの考えを共有しました。事例報告では、避難所を実際に運営する側として体験した職員の話、ボランティアの運営側の体験談や事例など様々な報告を聞き、学びました。交流会は、参加者の方たちとどのような活動を行っているのか、何を問題として抱えているのかなどたくさん話を聞きました。また、参加者の方の計らいにより、学生が集まって交流する場などもありました。

文学部地理学科2年 鬼頭 雅也

<参加学生の感想>

今回のテーマは「多様」でした。事前課題を取り組んだとき「多様」を認めることは、例えば避難所を運営するうえで大きな弊害になるのではないか、と結論に至っていました。各人の「多様」な要望を細かく聞いていては避難所の運営は困難になると感じたからです。そして訓練に参加して、特に事例報告が印象的であるが、割り切ることも必要だということが分かったとともに、積極的に考える必要もあることが分かりました。この「多様」はとても難しいことだと思いました。一番印象的なものは、受援する側のニーズの「多様」です。各地からボランティアが来てくれることはうれしいが、むやみに、という新しい問題が生まれます。受け入れる側は、事前に想定をしてどんなボランティアが必要なのかあらかじめ準備しておくことは無駄にはならないと思いました。

交流会では、経験の高い災害ボランティアの方のお話に加え、学生とも交流を深めました。ある団体は静岡県に一つの地域と協働関係を結び、災害の時に円滑に赴けるように事前に交流を行っているという貴重な話が聞けました。このことは自団体に生かしたいと考えています。

また、ファシリテーターの存在の大切さに再度関心を持ちました。チーム・オレンジの代表として時代と共に変化していくボランティアの在り方にうまく対応していくのに大切な能力だと思いました。このように、災害についての理解や考察に加え、団体運営についても大きなヒントを得られてとても有意義なものでした。

学生参加者数

1名



図上訓練の様子①



図上訓練の様子②

60. 岩手・宮城スタディツアー

日 時

2019年2月22日（金） 事前説明会

3月1日（金）～3月4日（月）実施

場 所

外濠校舎 S505教室 事前説明会

岩手県遠野市、陸前高田市、大槌町など 実施場所

概 要

東日本大震災から8年を迎えた今、スタディーツアーという形で被災地に対する理解やボランティアに対する導入として、今まで被災地を訪れていない学生が足を運ぶことで、風化防止や防災意識の向上につなげていくことを目的に実施しました。本企画はボランティアセンター所属の学生スタッフであるチーム・オレンジが企画し、各種手配や外部との調整、当日の運営なども行いました。また、実施にあたり2月22日（金）に事前説明会を行いました。

3月2日は、「釜石観光ボランティアガイドの会」の案内のもと、市内の視察を行いました。ガイドの方からは、津波にのまれながらも命からがら助かったという体験をお話いただいたり、当時のまま残されている建物を実際に見学したりすることで、参加学生は震災時の状況に思いを馳せ、自分の目で見ることでしか感じられない被災地の現状を学びました。また、本年夏にラグビーワールドカップの開催される釜石鶴住居復興スタジアムを見学し、復興を肌で感じることができました。午後には、「三陸鉄道」の運行する震災学習列車に乗車しました。車窓から景色を眺めながら、三陸鉄道の被災状況やその後のクウェートからの支援などについてお話をうかがいました。

3日は、宮古市の景勝地である「浄土ヶ浜」の見学を行いました。ガイドの方のお話を聞きながら浄土ヶ浜の美しい景色を眺めたり、津波にのまれたレストハウスの話を聞いたりしました。午後には、「学ぶ防災ガイド」の案内のもと、市街が全滅状態になった田老地区の視察を行いました。全員で防波堤の上に立ちその高さを実感するとともに、それを乗り越えた津波の恐怖を感じました。震災当時、津波が迫ってくる様子が撮影された「たろう観光ホテル」の一室でビデオを視聴し、津波が来たら即高台へ、「津波てんでんこ」の考え方を学びました。その後は、実際に小学生が避難した津波避難道を通して、高台に逃げる疑似訓練をしました。

4日は「陸前高田市観光協会」のガイドのもと、陸前高田市の視察を行いました。復興のシンボルとなっている奇跡の一本松や、津波が3階まで襲った旧気仙中学校、かさ上げ工事の街並み等を視察させていただくことで復興の進んでいる様子を学びました。しかしながら用途の決まっていない広大な土地を見て、被災地におけるまちづくりの難しさも感じました。午後は気仙沼市に移動し、シャークミュージアムを見学しました。震災関連の展示や映像を通して、一瞬にして故郷を奪われた方々の苦しみ、また、そこから立ち上がろうと前を向く力強い姿を学ぶことができました。気仙沼の産業であるサメ関連についても学び気仙沼の生活についても学ぶことができました。

身につけておくべき防災知識や被災地での今現在の問題点を自分も含めて参加者全員が知ることができ、とても良いツアーを実行できました。日程などの都合上、視察やガイドといった受動的な体験ばかりになってしまいましたが、現地の人ともっと交流するような能動的な体験ができるように設定すればよかったと思います。被災地やボランティアに興味があるけれど一歩踏み出せない人なども参加しやすいように、今後も様々な企画を実施していきたいと考えています。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 法政大学文学部2年 伊達 隼人

＜参加学生の感想＞

風景を見る限り、徐々に復旧、復興しているように見えました。

一方で被災した方々の中には、今なお葛藤し続けている方も多く、震災はまだ終わっていない、いや終わらないのだと思いました。



複数の方が「いま必要な支援は心のケア」であるとおっしゃっていました。わたしたちは所詮部外者であり、被災者との壁は否定できません。でも被災者には「よそ者になら話せること」もあるといいます。“話を聞く”ことで被災者の方が背負うものを少しでも共有したいし、今回出会ったみなさんから学んだことを自分の中で「生きた教訓」として残していきたいです。

経営学部 経営学科 3年

最初は参加を悩んでいましたが、参加して良かったです。私がこのツアーに参加したのは就活をしていて宮城に来ることがあり、それがきっかけでもっとしっかり学びたいと思ったからです。自分で得られる情報（YouTubeやテレビなど）で勉強はしていましたが、直接震災・津波を経験した方に話を伺えるというのはより衝撃やその苦労が伝わってきました。

今回、街を見るだけになってしまい、被災地の方の力になれなかったのが歯がゆかったです。そしてツアーでガイドをしてくださった方にお礼をちゃんとしたいです。目を赤くして、鼻をすすりながらも当時あったことを私たちに伝えてくれたこと、とても感謝しています。

また、スタディツアーではありましたが他学部の学生ともっと仲良くなりたかったです。説明会で自己紹介などをすればスムーズにまた活発にいくと思いました。

キャリアデザイン学部 キャリアデザイン学科 3年

学生参加者数 31名



震災学習列車



浄土ヶ浜ガイド（宮古市）



学ぶ防災ガイド（田老町）



アイスブレイク（防災カルタ）



シャークミュージアム（気仙沼市）



意見交換会

市ヶ谷ボランティアセンター
活動について

活動の報告



駅ボランティア学生スタッフ皆川さんからの報告



東京メトロより表彰状、記念品の授与



東京メトロ社員、飯田橋駅社員と談笑



集合写真

62. ベイラー大学との合同ボランティアツアー

日 時 2019年3月11日(月)、12日(火)

場 所 新宿区(神楽坂)、荒川区(社会福祉協議会関連施設)、中央区(銀座)

概 要

市ヶ谷ボランティアセンターでは3月11日(月)、12日(火)にアメリカのベイラー大学の学生8名とVSPメンバー5名の共同で「ベイラー大学企画」を実施しました。

「子ども食堂」や「子どもの居場所」に関するボランティア活動や、日本の文化について知ってもらうための東京観光を行いました。法政大学の海外交流協定校であるベイラー大学のミッショントリップの一環で、私たちVSPはその活動のサポートをしながら一緒に活動しました。

1日目は、荒川区内の子ども食堂やおもちゃ図書館でのボランティア活動や、明治神宮・原宿・渋谷といった東京を代表する観光地巡りを行いました。子ども食堂では、ベイラー大学の学生さんが自分たちで料理を作り、子どもたちに喜んでくれたので充実した活動になったと思います。また、おもちゃ図書館では乳幼児の遊び相手になって子どもたちとふれあいました。普段は乳幼児と接することがないので、私たちにとっても新たな発見が沢山ありました。

2日目は、日本の文化や歴史をより知ってもらうことを目的に、焼き鳥体験や歴史博物館見学などを行いました。焼き鳥体験では、肉や野菜を串に刺すところから炭火を使って実際に焼くところまでをお店のスタッフさんに教えていただきながら行い、ベイラー大学の学生とも楽しく交流することができました。その後は江戸東京博物館や浅草に行きました。ベイラー大学の皆さんには今まで知らなかった日本を感じ取ってもらえたのではないかと思います。

2日間の活動の中で、特に印象深かったのは子ども食堂での出来事です。ベイラー大学の学生さんは日本語をほとんど話せません。ですが積極的に子どもたちとコミュニケーションを取ろうとした彼らの思いが伝わったのか、食堂の子どもたちも気持ちを一生懸命伝えようとしてくれました。その様子を見て、言葉は通じなくても気持ちを伝えようとするのが大切だということを学びました。この企画をやるまでは、「私は英語を話せないからベイラー大学の皆さんとちゃんと交流できないだろうな…」と思っていたのですが、上手く言葉で伝えられなくても相手の学生さんが気持ちを汲み取ろうとしてくれたので楽しい時間を過ごせました。

今後は今回できなかったことや上手くいかなかったことを生かし、一般学生の皆さんが楽しみながら交流を図ることができるよう企画を考え実施していきたいです。

文学部日本文学科 1年 齋藤真悠

企画スタッフ学生の感想

今回、私は主に1日目の午後の活動に関わる、バイタル・プロジェクトさんとベイラー大学の方をつなげる役割を担っていました。バイタルの方にもベイラーの方にも、多くの感謝をいただき、嬉しい気持ちになりました。

子ども居場所ステーションに来ている子どもたち、ベイラー大学の学生さん、両者に得るものがあったようで良かったです。いろんな方にボランティア事業に興味を持っていただけるよう、広めていきたいと思いました。また今回のような機会があれば、その際もつなげる役割を担いたいです。

文学部 1年 佐久間 喜望

企画実施前は仲良くなれるか不安がありましたが、みなさんとても良い方々で、良い友達になりました。事前の打ち合わせを重ねてスケジュールを決めたことで充実した2日間を過ごせたと思います。

経営学部 1年 月岡 悠

私はこれまで国際交流にはあまり興味がなかったのですが、この活動で文化や考え方の違う外国の方と話すことの楽しさがわかり、とても良い経験になりました。また子供たちをみんなで見守れる社会づくりに貢献する活動を行なっていきたいと思いました。

経営学部 1年 後藤 優音

学生参加者数 13名



焼き鳥体験をしている様子



子ども食堂でのボランティアの様子



ハチ公前から観光へ出発



グループ行動で交流を深める



焼き鳥マスターの修了書を手に



両大学での集合写真